

京都大学

生態学研究センター・ニュース No. 49 業績目録

京大大学生態学研究センター

Homepage: <http://ecology.kyoto-u.ac.jp>

センター長 和田英太郎

Center for Ecological Research

Kyoto University

目次

- はじめに
 - 活動報告
 - 共同研究
 - 講演活動
 - 著者リストの収録内容と凡例
 - A. Staffs スタッフ
 - B. Research Students and Fellows 大学院生・研修員
 - C. Guest Scientists 協力研究員
 - 生態研セミナー
 - 調査船「はす」運航表
 - あとがき
-

はじめに

1997年度で京大大学生態学研究センターは7年目を終了しました。永年の努力が実り、7年目はIGBP, DIVERSITAS, HDPに関連した三つの大型・中型プロジェクトが始まりました。また、新しい建物も琵琶湖の南、文化ゾーンに着工となりました。琵琶湖の研究に欠くことのできない研究船も小型ながら新しくなりました。西太平洋アジア生物多様性ネットワークの活動も順調に進んでおります。

多忙な1年でしたが、当センターのスタッフ、非常勤(COE)スタッフ、研修員、大学院生、それに協力研究員の方々による1997年度の業績目録をここにお届けします。

あと残り3年間、センターのより良き発展をめざすべく、時限後の組織のあり方、生態学の新しい視座に関する検討も始まりました。以前にもまして、皆様のご支援をお願い申し上げます。

生態学研究センター長 和田 英太郎

活動報告

生態学研究センターでは、1997年に次のような共同利用事業およびセンター運営の活動を行いました（括弧内は当該報告が掲載されているセンターニュース）。

1. 共同研究

1997年度にセンターが行った共同研究は23件であった。1997年度は文部省科学研究費創生的基礎研究「地球環境攪乱下における生物多様性の保全及び生命情報の維持管理に関する総合的基礎研究」（代表者：川那部浩哉）、IGBP（地球圏 - 生命圏国際共同研究計画）の一環として文部省国際共同研究等経費（代表者：和田英太郎）、日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業「地球環境情報収集の方法の確立—総合調査マニュアルの作成に向けて—」（代表者：和田英太郎）のプロジェクトがスタートした。

そのほか、文部省科学研究費国際学術研究2件、文部省科学研究費基盤研究（A）3件、文部省科学研究費基盤研究（B）4件などであった（本号6～8ページ）。

2. 協力研究員

センターとしての研究活動をより推進するために、学内外の研究者に協力研究員を委嘱している（任期2年間）。現在215名が任命されている（センターニュースNo.39にリスト、No.43、No.47に追加リスト）。

3. 公募研究会など公募事業

センターでは1997年に5件の公募研究会、3件の公募実習、1件の国際野外生物学コースを行った。

公募研究会：

1. 「ピオトープと生物群集：ピオトープマッピングから見えてくるものは何か？」

代表者：岩崎敬二（奈良大・教養）、実施期日（場所）：1998年1月16日 - 18日（森林総合研究所関西支所）、話題提供数：7件、参加延べ人数：96名（センターニュースNo.50）

2. 「亜高山帯・亜寒帯針葉樹林を材料とした新たな知見/技術/視点による森林の構造と動態に関する研究の展望」

代表者：酒井聡樹（東北大・理研）、実施期日（場所）：1997年9月24日 - 26日（東北大学理学部付属八甲田山植物実験所）、話題提供数：7件、参加延べ人数：66名（センターニュースNo.46）

3. 「生命と地球のエネルギー代謝・物質代謝」

代表者：三室守（山口大・理）、実施期日（場所）：1997年10月10日（京都大学人間総合科学部）、話題提供数：6件、参加延べ人数：100名（センターニュースNo.47）

4. 「日本列島における端脚目甲殻類の多様性をさぐる」

代表者：森野浩（茨城大・理）、実施期日（場所）：1997年11月22日 - 23日（京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所）、話題提供数：11件、参加延べ人数：80名（センターニュース No. 41）

5. 「水循環と植物の関わり：水の安定同位体比を用いた研究」

代表者：杉本敦子（京大・生態研センター）、実施期日（場所）：1997年2月7日 - 8日（京都大学理学部）、話題提供数：20件、参加延べ人数：50名（センターニュース No. 41）

実習：

1. 「植物群集の垂直分布と繁殖生態」

代表者：松井淳（東北大・理研）、実施期日（場所）：1997年7月6日 - 13日（東北大学理学部附属八甲田山植物実験所）、受講者：6名（センターニュース No. 45）

2. 「森林生態学実習」

代表者：菊沢喜八郎（京大・生態研センター）、実施期日（場所）：1997年8月4日 - 11日（北海道立林業試験場）、受講者：15名（センターニュース No. 45）

3. 「生態学研究におけるVA菌根菌の取扱技術」

代表者：小川真（関西総合環境研究センター・生物環境）、実施期日（場所）：1997年11月13日 - 14日（関西総合環境研究センター）、受講者：13名（センターニュース No. 47）

国際野外生物学コース：

「国際野外生物学コース・第3回タイ熱帯林」、世話人：松原健司（淑徳大学）、湯本貴和（京大・生態研センター）、実施期日（場所）：1997年8月10日 - 31日（タイ）、受講者：16名（日本5名、台湾5名、タイ5名、アメリカ1名）

4. 公開シンポジウム

センターを中心に、1997年に2件の公開シンポジウムを行った。

1. 京都大学環境フォーラム公開シンポジウム「地球環境と京都大学」

実施期日（場所）：1997年11月24日（京大・法経第一教室）、話題提供数：5件、参加延べ人数：250名（センターニュース No. 48）

2. 新プロ公開シンポジウム「多様性のサイエンス」

実施期日（場所）：1997年10月12日（東大・山上会館）、話題提供数：7件、参加延べ人数：100名（センターニュース No. 46）

5. 国際シンポジウム

センターを中心に、1997年に4件の国際シンポジウムを行った。

1. 国際ワークショップ「シロアリ：その共生系、社会性と地球規模での多様化」

世話人：安部琢哉、東正彦、井上徹志（京大・生態研センター）、実施期日（場所）：1997年3月10日 - 15日（京都・京大会館）、話題提供数：29件、参加延べ人数：50名（センターニュース No. 43）

2. 国際シンポジウム"Biodiversity and Ecological Complexity"

世話人：東正彦（京大・生態研センター）、実施期日（場所）：1997年11月7日 - 9日（京都・芝蘭会館）、話題提供数：20件、参加延べ人数：75名（センターニュース No. 48）

3. 国際シンポジウム"Biodiversity and Dynamics of Forest Ecosystems in Western Pacific and Asia"

世話人：中静透（京大・生態研センター）、実施期日（場所）：1997年11月10日 - 11日（京都・京大会館）、話題提供数：20件、参加延べ人数：80名（センターニュース No. 48）

4. DIWPA Second Symposium "Monitoring and Inventorying of Biodiversity in Western Pacific and Asia"

世話人：Chang-Hung Chou（Academia Sinica）、湯本貴和（京大・生態研センター）、実施期日（場所）：1997年11月14日 - 16日（台北、Academia Sinica）、話題提供数：30件、参加延べ人数：250名（センターニュース No. 47）

6. 生態研セミナー

このセミナーは生態学研究センターの共通セミナーとして定期的に行なわれていた。1997年には32回（オーガナイザー：山村則男）、開催した。毎月2回（原則として第1、第3金曜日）、毎回2名に1時間ずつ（発表50分、議論10分）、話題を提供していただいた。会場は主として京都大学理学部2号館で、随時、生態学研究センター（大津）で行った。センター内から23名、海外からは13名の講演者があった。参加人数は各回30から70名、延べ1300名であった（本号43～49ページ）。

7. ニュースレターの発行

センターの活動を全国の生態学に興味を持たれている方々に知っていただくため、隔月にニュースレターを発行した。1997年は第41号（2月20日）、第42号（業績目録、7月）、第43号（4月20日）、第44号（6月20日）、第45号（8月20日）、第46号（10月20日）、第47号（12月20日）を発行した。現在、個人769件、機関333件、計1102件に送付されている。ニュースレターでは、生態学研究センターの活動のみならず、広く生態学一般の情報を提供している。

8. 共同利用施設の充実

1. 大型機器分析：安定同位体比精密測定用分析システムは、元素分析計を備えた有機物中の炭素、窒素同位体比の自動分析装置（コンフロ）と水の酸素、水素同位体比自動分析装置、キャピラリーガスクロマトと燃焼装置を備えたGCCMSが稼働している。97年度は合計で分析に延べ171日の利用があった。このうち86日は学内、学外からの共同利用であった。また、今年度は安定同位体比の利用に関する公開実習も行った。DNAシーケンサーシステムは、全自動蛋白質一次構造分析装置、微量蛋白質生成成分取装置、蛍光分光光度計、液体クロマトグラフィ - アミノ酸分析装置、自記分光光度計、超遠心機などが導入されている。97年の共同利用は、京都大学理学研究科（3件）であった。
2. 生態情報アクセスシステム：生態学研究センター内はマッキントッシュ約57台がアップルトラックで連結され、「生態学研究センターニュース」の編集もすべて、このシステム下で行われ

ている。1996年3月よりWWWホームページを開設し、セミナー案内、センターニュース、学会へのアクセスなどの情報提供をおこなっている（<http://ecology.kyoto-u.ac.jp> or <http://ecology.kyoto-u.ac.jp/indexj.html>）。現在、京都大学ホームページ、京大動物生態のホームページ、神戸大学内海域機能教育研究センターからリンクを受けている。

3. 船の利用：センターの観測調査船『はず』は、センターの調査・観測だけではなく、琵琶湖で調査や実習をされる方々にも共同利用されている。1997年度の共同利用は、実習1件1日（2名）、観測調査28件（延べ58名）であった。このほかセンターが実施している毎月の定期観測（12件12日）の同乗者やセンター教官との共同研究に利用もあった（延べ運航日数110日延べ乗船者数508名）。平成10年3月に三代目の観測調査船『はず』が竣工した。全長12ノット・耐食アルミニウム合金製。主な観測航海機器としてDGPS・レーダー・魚群探知機・真風向風速計・流向流速計・ジャイロコンパス・デジタル水温計・航法インターフェイス・採水ウィンチ・アーマードケーブルウィンチを装備している。琵琶湖において、調査・観測や全国共同利用に活用される予定である。

9. 協議委員会・運営委員会の開催

2月17日 運営委員会（第19回）（議題：COE非常勤講師、概算要求、自己点検評価について）（センターニュース No.43）

2月25日 協議委員会（第27回）（議題：COE非常勤講師、概算要求、自己点検評価、研修員について）（センターニュース No.43）

共同研究

1997年度の文部省科学研究費などによるセンタースタッフが関係した共同研究をまとめました。研究者は代表者を筆頭とし、センタースタッフは斜体文字で示し、センタースタッフ以外の研究分担者については省略してあります。

川那部浩哉（琵琶湖博物館）・*安部・和田・東・中西・中静・菊沢・山村・清水*ほか
「地球環境攪乱下における生物多様性の保全及び生命情報の維持管理に関する総合的基礎研究」
1996-2001 文部省科学研究費創生的基礎研究

長野敏英（東農大・農）・*和田*ほか
「熱帯湿性林地域における生物生産性の維持メカニズムの解明と環境修復技術の開発」
1995-99 文部省科学研究費創生的基礎研究

*和田・東・菊沢・占部・杉本・藤田*ほか
「地球圏・生物圏国際協同研究計画」
1997-2001 文部省国際共同研究等経費（IGBP 経費）

*中西*ほか
「食物網が担う「第2の生物ポンプ」 - 琵琶湖で解く地球環境変動の謎 - 」
1996-97 文部省科学研究費基盤研究（A）

矢原徹一（九州大・理）・菊沢ほか
「性の進化生態学」
1996-1998 文部省科学研究費基盤研究（A）

菊沢・中静ほか
「植物生態学の新しい統合に関する研究」
1997-99 文部省科学研究費基盤研究（A）

遊磨・和田・中西・成田ほか
「琵琶湖沿岸域における環境変動とそれに対する生物群集の動態」
1995-97 文部省科学研究費基盤研究（B）

湯本・東ほか
「モンスーンアジアにおける環境変動と生物ダイナミクス」
1995-97 文部省科学研究費基盤研究（B）

和田ほか
「近過去生物圏学のはじめ - 水界の食物網 100 年史の解読」
1996-97 文部省科学研究費基盤研究（B）

中静・菊沢ほか
「種子散布の適応価に関する定量的研究」
1996-98 文部省科学研究費基盤研究（B）

清水ほか
「昆虫の光周受容色素の分子生理学的研究」
1996-97 文部省科学研究費基盤研究（C）

菊沢・湯本ほか
「湿潤熱帯山地における樹木のフェノロジーに関する研究」
1996-98 文部省科学研究費国際学術研究

和田・杉本ほか
「陸域生態系の環境変化に対する応答」
1997-99 文部省科学研究費国際学術研究

和田ほか
「バイカル湖の湖底泥を用いる長期環境変動の解析に関する国際共同研究」
1995-1997（第I期） 科学技術振興調整費

和田・中西・東・遊磨ほか
「地球環境情報収集の方法の確立—総合調査マニュアルの作成に向けて—」
1997-2001 日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業

中静ほか
アジア太平洋地域における地球温暖化の局地植生への影響とその保全に関する研究
「大面積長期観測林を用いた温暖化が森林の自律機能に及ぼす影響に関する研究」
1996-98 森林総合研究所

竹門康弘（大阪府大・総合科学）・遊磨ほか
「河川の浸食・堆積環境と生物の棲み場所構造の関係」
1997-98 水資源研究センタープロジェクト研究

名越誠（奈良女子大・理）・成田 ほか
「沖合生態系の異変に伴う食物連鎖構造の解析」
1995-97 琵琶湖研究所委託研究

高谷好一（滋賀県大・環境文化）・遊磨 ほか
「生活と科学の接点としての環境調査の手法開発に関する研究 — 参加型から対話型へ —」
1997 琵琶湖博物館共同研究

嘉田由紀子（琵琶湖博物館）・遊磨 ほか
「水生生態系と人間活動に関する総合研究」
1997 琵琶湖博物館総合研究

嘉田由紀子（琵琶湖博物館）・遊磨 ほか
「アフリカ・マラウィ湖周辺の人びとの湖沼生活文化に根ざした生態系保全の方法開発に関する研究—
琵琶湖地域との比較の視点を含めて—」
1996.10-98.9 トヨタ財団研究助成(B)

中静 ほか
「ブナ林の維持・保全に関するネットワーク研究」
1997-98 日本生命財団

尾本恵市（国際日本文化センター）・田端 ほか
「20世紀の生命科学」
1997 総合研究大学院大学共同研究



講演活動

1997年センターのスタッフが行った講演活動の一部のリストです。これ以外にも多数の講演が行われました。

- 中静 透・田中 浩・Dokrak Marod・Utis Kutintara 1997 タイの熱帯季節林における実生の動態と水分環境 第108回日本林学会大会講演要旨集、福岡、152
- Nakashizuka, T. 1997 Network study in forest ecology in western Pacific and Asian region. Proceedings of the Abstracts for the "Second DIWPA Symposium/Workshop on Monitoring and Inventorying of Biodiversity in Western Pacific and Asia", Taipei. IV-3.
- Nakashizuka, T. 1997 The implications of natural disturbance regimes in forest management. Program & Abstracts of "BIO-REFOR, Overcoming Impediments to Reforestation", Brisbane. P. 22.
- 成田哲也(1997/9/1)「動物プランクトンにコアユによる捕食の影響はあるか？」日本陸水学会62回大会（奈良）
- 清水勇(1996/9/20)両側性と陸封性アユにおけるレチナ - ル組成と視物質遺伝子の比較研究. 第67回日本動物学会大会、札幌。
- 清水勇、源利文(1997/3/29)魚類の視物質遺伝子の分子系統. 第44回日本生態学会大会、札幌
- 杉本敦子(1997/9/18) Effect of vegetation change on methane emission from a wetland. V Symposium on the Biogeochemistry of Wetlands. London.

- 立石貴浩、高津文人 (1997/5/24) 蛍光色素結合レクチンを使用した外生菌根性の菌糸の特異的検出の試み。日本菌学会第 41 回大会、広島大学。
- Wada, E. (1997/3/5) Biodiversity and IGBP Projects. East Asia-Pacific Regional Conference of International Long-Term Ecological Research, National Institute for Environmental Studies, Tsukuba.
- 和田英太郎、高津文人 (1997/5/24) 菌類が物質循環にはたす役割 - 特に安定同位体精密測定法を中心として。日本菌学会第 41 回大会、広島。
- 和田英太郎 (1997/12/1) 地球環境問題と微生物 - 特に CH₄ と N₂O に関連して - . 三菱化学生命科学研究所公開シンポジウム「自然界の微生物の姿を捉える」、学士会館、東京。
- 安井行雄 (1997/11/28) 「親の論理と子の論理：雌の多回交尾から社会性進化へ」日本動物行動学会第 16 回大会ラウンドテーブル、京都大学
- 遊磨正秀 (1997/1/8-11) 「日本の自然：水田農耕と生物群集の歴史に関する推論」. 第 7 回京都国際セミナー「安定社会の総合研究：ものをつくる・つかう」、京都府京北町。
- 遊磨正秀 (1997/2/4) 「ホタルと人の水環境」、第 31 回日本水環境学会セミナー「生き物から水環境を見る」、東京。
- 遊磨正秀 (1997/2/22) パネルディスカッション「川筋からのまちづくり」コーディネーター、大津市河川愛護団体連合会結成 10 周年記念シンポジウム、大津。
- 遊磨正秀 (1997/2/22) 「近江のふるさとの川はいま・・・」、大津市河川愛護団体連合会結成 10 周年記念シンポジウム、大津。
- 遊磨正秀 (1997/3/19) 「ふるさとの川はいま・・・」、滋賀県環境保全協会研修会、大津。
- 遊磨正秀 (1997/4/23) 「ウエットランド、その自然と人為」、第 20 回海洋セミナー宇佐、土佐市
- 遊磨正秀 (1997/5/22) 「ホタルの水、人の水」、平成 9 年度愛知ホタルの会総会、西尾市。
- 遊磨正秀 (1997/6/16) 「水田農耕地における生物群集」、都市及びその周辺地域における健全な水循環の再生と望ましい水環境の創造に関する研究 (土木学会関西支部水循環研究会ワークショップ)、大阪市。
- Yuma, M. (1997/6/28) 「Conservation of aquatic biodiversity and human culture: An attempt at joint study with local residents」、International Conference on Ancient Lakes, Kusatsu City.
- Yuma, M. (1997/8/4-5) 「海洋牧場理論」、Course of Fisheries Oriented Resource Management (資源管理型漁業コース；国際協力事業団四国支部・高知大学海洋生物教育センター共催)。
- 遊磨正秀 (1997/8/10) 「こども・遊び・環境」、大津こども環境人交流会、大津市。
- 遊磨正秀 (1997/9/3) 「日本の淡水生物相に関する一試論：水田農耕とのかかわりにおいて」、日本陸水学会第 62 回大会、奈良市。
- 湯本貴和 (1997/2/23) 「万葉からのいのちの流れ - 自然と人間との共生」、橿原市コスモスセミナー、橿原市。
- 湯本貴和 (1997/7/5) 「私たちが困む生き物たちと地球温暖化」、環境市民・地球温暖化問題を学ぶ市民向け連続講演会、京都。
- 湯本貴和 (1997/10/12) 「熱帯雨林の季節が作りだす生物多様性」、公開シンポジウム「多様性のサイエンス」、東京。
- 湯本貴和 (1997/11/12) 「東南アジア熱帯の一斉開花の送粉生態学」京都賞記念ワークショップ「生物多様性の保全」、京都。

■ 著作リストの収録内容と凡例 ■

1. 第7巻著作リストには生態学研究センターの構成員（スタッフ，大学院生および研修員）および協力研究員が，1997（平成9）年（「年度」ではない）に発表した著作を収録します．印刷中のものも，発表年が1997年以降になるものは収録しません．
2. 配列は，(A) スタッフ, (B) 大学院生および研修員, (C) 協力研究員のそれぞれについて，名前のアルファベット順です．協力研究員については，前センター長を除いて，各巻ごとに1)からはじまるナンバーをふります．スタッフと大学院生については，著作の種別（「原著論文」，「著書」，「その他」）ごとに示しています．「著書」は，単著か編著のいずれかに限り，分担執筆は内容によって「原著論文」か「その他」に区分してあります．
3. 協力研究員については，著作リストに載せる・載せないは，各研究員の自由意志とし，「載せてもよい」と判断された方の，そして判断された著作だけを収録しています．ご協力ありがとうございました．
4. 印刷の形式は欧文・和文にかかわらず以下の3通りとしました：
 - 定期刊行学術誌掲載の論文など
カバ -) 著者名{ 著者名; ...} (刊行年) 論文タイトル. 定期刊行物名 巻: 始ページ - 終ページ. [キーワード]
 - 単行本（含翻訳）など
カバ -) 著者名{ 著者名; ...} (刊行年) 著書タイトル. 総ページ pp. 出版社, 所在地. [キーワード]
 - 単行本のなかに掲載の論文など
カバ -) 著者名{ 著者名; ...} (刊行年) 論文タイトル. In: 単行本名. (ed. by 編者名{ ...}) pp. 始ページ - 終ページ. 出版社, 所在地. [キーワード]

A . Staffs スタッフ

原著論文

ABE, Takuya 安部琢哉

Higashi, M; Abe, T. (1997) Global diversification of termites driven by the evolution of symbiosis and sociality. In: Biodiversity: A Ecological Perspective. (ed. Abe, T., Levin, S. A. and Higashi, M.) pp.83-112. Springer-Verlag, N.Y., USA.

Tayasu, I.; Abe, T.; Eggleton, P.; Bigunell, D. E. (1997) Nitrogen and carbon isotope ratios in termites: an indicator of trophic habit along the gradient from wood-feeding to soil-feeding. *Ecological Entomology* 22:343-351.

Inoue, T.; Vijarnsorn, P.; Abe, T. (1997) Mound structure of the fungus-growing termite *Macrotermes gilvus* in Thailand. *Journal of Tropical Ecology* 13:115-124.

FUJITA, Noboru 藤田昇

Sugimoto, A. & Fujita, N. (1997) Characteristics of methane emission from different vegetations on a wetland. *Tellus* 49B: 382-392.

Fujita, N. (1997) Forest vegetation around Lake Baikal. In Wada, E. et al., eds, *New Scope on Boreal ecosystems in East Siberia, DIWPA vol. 2*, pp. 88-98.

HIGASHI, Masahiko 東正彦

Ishii, R. and Higashi, M. (1997) Tree coexistence on a slope: an adaptive significance of trunk inclination. *Proceedings of the Royal Society, London B* 264:133-140.

INOUE, Tamiji 井上民二

Nagamitsu, T.; Inoue, T. (1997) Cockroach pollination and breeding system of *Uvaria Elmeri* (Annonaceae) in a lowland mixed-dipterocarp forest in Sarawak. *American Journal of Botany* 84(2): 208-213.

Nagamitsu, T.; Inoue, T. (1997) Aggressive foraging of social bees as a mechanism of floral resource partitioning in an Asian tropical rainforest. *Oecologia* 110: 432-439.

KIKUZAWA, Kihachiro 菊沢喜八郎

Kikuzawa, K., Repin, R. & Yumoto, T. 1997. How trees expand their leaves in tropical forests: Interpretation by observation of shoot morphology. *Sabah Parks Nature Journal* 1:19-35.

浅井達弘・水井憲雄・菊沢喜八郎 1997 残存密度を異にしたダケカンバ二次林の10年間の成長 日本林学会北海道支部論文集 45: 50-52

NAKANISHI, Masami 中西正己

Ishida, Y., Tsuge, S., Ohtani, H., Sekino, T., Nakanishi, M. and Kimoto, T. (1996) Discriminative analysis of zooplankton individuals by pyrolysis-gas chromatography combined with on-line methylation. *Analyst* 121: 853-856.

Urabe, J., Kawabata, K., Nakanishi, M. and Shimizu, K. (1996): Grazing and food size selection of zooplankton community in Lake Biwa during BITE'93. *Jpn. J. Limnol.*, 57: 27-37.

Nakano, S., Tanaka, K., Sono, T., Wakabayashi, T., Ichise, S., Yamanaka, S., Kaneda, E., Yada, M., Naitho, M., Kawabe, K., Maehata, K., Fujiwara, N., Maeda, N., Nomura, K. and Nakanishi, M. (1996): Seasonal changes in horizontal distribution of algal picoplankton in Lake Biwa, with special reference to water temperature, nutrient levels and heterotrophic flagellates. *Jpn. J. Limnol.*, 57: 49-55.

Kawabata, K. and Nakanishi, M. (1996): Food web structure and biodiversity in lake ecosystem. In: *Biodiversity, An Ecological Perspective* (eds. by Abe, T., Levin, A. and Higashi, M.), Springer, 203-213.

Nakano, S., Sekino, T., Kawabata, K., Mitamura, O. and Nakanishi, M. (1996): Spatial and temporal changes in abundance of phytoplankton. *Lake Biwa Monographs special issue*, 133-146.

Nagata, T., Takai, K., Kawabata, K., Nakanishi, M. and Urabe, J. (1996): The trophic transfer via a picoplankton-flagellate-copepod food chain during a picocyanobacterial bloom in Lake Biwa. *Arch. Hydrobiol.*, 137:145-160.

Nakano, S., Seike, Y., Sekino, T., Okumura, M., Kawabata, K., Fujinaga, K., Nakanishi, M., Mitamura, O., Kumagai, M. and Hashitani, H. (1996): A rapid growth of *Aulacoseira granulata* (Bacillariophyceae) during the Typhoon season in the south basin of Lake Biwa. *Jpn. J. Limnol.* 57: 493-500.

Seike, Y., Nakano, S., Okumura, M., Hirayama, A., Mitamura, O., Fujinaga, K., Nakanishi, M., Hashitani, H. and Kumagai, M. (1996): Temporal variations in the nutritional state of phytoplankton communities in Lake Biwa due to Typhoons. *Jpn. J. Limnol.*, 57: 485-492.

Nakanishi, M. and Sekino, T. (1996): Recent drastic changes in Lake Biwa bio-communities, with special attention to exploitation of the littoral zone. *GeoJournal*, 40: 63-67.

中西正己・関野樹 (1997) : 琵琶湖水質の生物学的特徴. *環境技術*, 26: 13-17.

Sekino, T., Nakanishi, M., Ishida, Y., Isomura, S., Tsuge, S., Ohtsuki, H. and Kimoto, T. (1997): Inter- and intraspecific difference in fatty acid composition of freshwater crustacean zooplankton. *Freshwater Biol.*, 38: 611-618.

NAKASHIZUKA, Tohru 中静透

Tanaka, H. & Nakashizuka, T. 1997 Fifteen-years of canopy dynamics analysed by aerial photographs in a temperate deciduous forest, Japan. *Ecology* 78: 612-620.

Nakashizuka, T., Takahashi, Y., and Kawaguchi, H. 1997 Production-dependent reproductive allocation of a tall tree species *Quercus serrata*. Journal of Plant Research 110: 7-13.

Shibata, M., Tanaka, H. & Nakashizuka, T. 1997 Causes and consequences of mast seed production of four co-occurring *Carpinus* species in a temperate forest, Japan. Ecology 79 : 54-64.

OOI, Kazuyuki 大井和之

Ooi, K., Ohsita, S., Izumi, I. and Yahara, T. (1997) Molecular phylogeny of geminivirus infecting wild plants in Japan. Journal of Plant Research, 110(2): 247-257.

Sharma, A., Maruyama, A., Osaki, T., Ooi, K., Yahara, T. and Ikegami, M. (1997) Genotypic variability in AC1 ORF region of tobacco leaf curl geminivirus from naturally infected wild plants. Ann. Phytopath. Soc. Japan, 63(4): 298-303.

SHIMIZU, Isamu 清水勇

Ichikawa, T.; Shiota, T.; Shimizu, I.; Kataoka, H. (1996) Functional differentiation of neurosecretory cells immunoreactive to the diapause hormone and the pheromone biosynthesis activating neuropeptide of the moth, *Bombix mori*. Zool. Science, 13: 21-25.

Shimizu, I.; Barth, F. G. (1996) The effect of temperature on the temporal structure of the vibratory courtship signals of a spider (*Cupiennius salei*Keys). J. Comp. Physiol.(A), 179:363-370.

Shimizu, I.; Aoki, S.; Ichikawa, T. (1997) Neuroendocrine control of diapause hormone secretion in the silkworm, *Bombyx mori*. J. Insect Physiol., 43:1101-1109.

Minamoto, T.; Shimizu, I.; Hisatomi, O.; Tokunaga, F. (1997) Molecular evolution of visual pigment genes and mitochondrial DNA among Salmoniformes fishes. Zool. Science 14:p24

SUGIMOTO, Atsuko 杉本敦子

Sugimoto, A. and Fujita, N. (1997) Characteristics of methane emission from different vegetations on a wetland. Tellus 49B: 382-392

Inoue, T., K. Murashima, J.-I. Azuma, A. Sugimoto and M. Slaytor (1997) Cellulose and xylan utilization in the lower termite *Reticulitermes speratus*, J. Insect Physiol. 43: 235-242

陀安一郎、杉本敦子 (1997) 安定同位体を用いた腐植食性の研究 - シロアリからの考察 - . 月刊海洋 29: 430-436

TABATA, Hideo 田端英雄

田端英雄(1997)里山との新しい関係. In:ピオトープの計画と設計 - 生物生息環境創造. pp.333-345. 工業技術会

Timoshkin, Oleg A. (Visiting Professor)

Timoshkin, O. A. and Kawakatsu, M. (1996) Taxonomic revision of the genus *Diplosiphon* EVDONIN, 1977 (Plathelminthes, Neorhabdocoela, Kalyptorhynchia), endemic to Lake Baikal, with the description of two new species, a new diagnosis of the genus *Diplosiphon* and establishment of *D. Baikalensis* neotype. Bull. Fuji Women's College, No.34, Ser.II: 63-85.

Kuznedelov, K. D., Timoshkin, O. A. and Kumarev, V. P. (1996) Phylogenetic relationships of Tricladetes (Turbellaria, Tricladida, Paludicola) of Lake Baikal deduced from 18S rRNA sequence data. Molecular Biology, Vol.30, No.6, Part 1, 792-797.

URABE, Jotaro 占部城太郎

Urabe, J., J. Clasen and R. W. Sterner (1997) Phosphorus limitation of *Daphnia* growth: is it real? *Limnol. Oceanogr.*, 42: 1436-1443.

WADA, Eitaro 和田英太郎

Kikuchi, E. and Wada, E. (1996) Carbon and nitrogen stable isotope ratios of deposit-feeding polychaetes in the Nanakita River Estuary, Japan. *Hydrobiologia*, 321, Kluwer Academic Publishers, 69-75.

Wada, E. (1997) Stable isotope ratios in ecosystems-possible parameters assessing ecological function and structure. *Conserving Biodiversity for Sustainable Development*, Indian National Science Academy, 53-60.

Miyajima, T., Yamada, Y., Wada, E., Nakajima, T., Koitabashi, T., Hanba, Y.T. and Yoshii, K. (1997) Distribution of greenhouse gases, nitrite, and $\delta^{13}\text{C}$ of dissolved inorganic carbon in Lake Biwa: Implications for hypolimnetic metabolism. *Biogeochemistry*, 36, Kluwer Academic Publishers, 205-221.

Hanba, Y. T., Mori, S., Lei, T. T., Koike, T. and Wada, E. (1997) Variations in leaf $\delta^{13}\text{C}$ along a vertical profile of irradiance in a temperate Japanese forest. *Oecologia*, 110, 253-261.

Jedrysek, M. O., Halas, S., Wada, E., Sokolowski, K., Filus, M. S., Takai, Y. and Radwan, S. (1997) Carbon isotope evidence for seasonal and spatial variations of methanogenesis during early diagenesis in freshwater lake sediments. *Acta Universitatis Wratislaviensis*, No. 1917, *Prace Geologiczno-Mineralogiczne LV*, 209-222.

Jedrysek, M. O., Halas, S., Wada, E., Boonprakup, S., Ueda, S., Vijarnsorn, P. and Takai, Y. (1997) Early-diagenetic methane from various tropical freshwater sediments: molecular and carbon isotope variations in one dial cycle. *Annales Societatis Geologorum Poloniae*, Vol.67: 93-101.

Yoshii, K., Wada, E., Takamatsu, N., Karabanov, E. B. and Kawai, T. (1997) ^{13}C and ^{15}N Abundances in the Sediment Core (Ver 92/1-St-10-GC2) from Northern Lake Baikal. *Isotopes Environ. Health Stud.*, Vol.33, 277-286.

Miyajima, T., Wada, E., Hanba, Y. T. and Vijarnsorn, P. (1997) Anaerobic mineralization of indigenous organic matters and methanogenesis in tropical wetland soils. *Geochimica et Cosmochimica Acta*, Vol.61, No.17, 3739-3751.

Nakamura, T., Osaki, M., Koike, T., Hanba, Y. T., Wada, E. and Tadano, T. (1997) Effect of CO_2 enrichment on carbon and nitrogen interaction in wheat and soybean. *Soil Sci. Plant Nutr.*, 43 (4), 789-798.

Koba, K., Tokuchi, N., Wada, E., Nakajima, T. and Iwatsubo, G. (1997) Intermittent denitrification: The application of a ^{15}N natural abundance method to a forested ecosystem. *Geochimica et Cosmochimica Acta*, Vol.61, No.23, 5043-5050.

Minoura, K., Hoshino, K., Nakamura, T. and Wada, E. (1997) Late Pleistocene - Holocene paleoproductivity circulation in the Japan Sea: sea-level control on $\delta^{13}\text{C}$ and $\delta^{15}\text{N}$ records of sediment organic material. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 135, 41-50.

Ohkouchi, N., Kawamura, K., Wada, E. and Taira, A. (1997) High abundances of hopanols and hopanoic acids in cretaceous black shales. *Ancient Biomolecules*, Vol.1, Overseas Publishers Association, 183-192.

Ohkouchi, N. and Wada, E. (1997) Secular variations of sedimentary organic $\delta^{13}\text{C}$ during the last 35 Ma in the tropical Atlantic, Site 925. *Proceedings of Ocean Drilling Program Scientific Results*, 154, 501-505.

YAMAMURA, Norio 山村則男

山村則男 (1997) 利他行動・協利行動の進化理論：基本的考え方と最近の展開． *科学* 67: 257-264.

Yamamura, N. (1997) Diversity and evolution of symbiotic interaction. In: *Biodiversity: An Ecological perspective* (ed. by Abe, T.; Levin, S.A.; Higashi, M.). pp. 75-82. Springer, New York.

YASUI, Yukio 安井行雄

Yasui, Y. (1997) A "good-sperm" model can explain the evolution of costly multiple mating by females. *The American Naturalist* 149: 573-584.

Yasui, Y. (1997) Sperm competition and the significance of female multiple mating in the predatory mite, *Parasitus fimetorum*. *Experimental & Applied Acarology* 21: 651-664.

YUMA, Masahide 遊磨正秀

Yuma, M. & Kondo, T. (1997) Interspecific relationships and habitat utilization among benthivorous cichlids. In: *Fish communities in Lake Tanganyika* (ed. by H. Kawanabe, M. Hori & M. Nagoshi). pp. 89-103. Kyoto University Press, Kyoto.

遊磨正秀・田中哲夫・竹門康弘・中井克樹・淵側祐一・小原明人・今泉眞知子・佐藤浩・土井田幸郎 (1997) 瀬田月輪大池における魚類群集の変遷 - 12年間の生物学実習の結果より - . 滋賀医科大学基礎学研究 8: 19-36.

YUMOTO, Takakazu 湯本貴和

Yumoto, T., Itino, T. and Nagamasu, H. (1997) Pollination of hemiparasites (Loranthaceae) by spider hunters (Nectariniidae) in a South-east Asian tropical rainforest. *Selbyana* 18 (1): 51-60.

Noma, N. & Yumoto, T. (1997) Fruiting phenology of animal-dispersed plants in response to winter migration of frugivores in a warm temperate forest on Yakushima Island. *Ecol. Res.* 12: 119-129.

著書

ABE, Takuya 安部琢哉

Abe, T., Levin, S. A. and Higashi, M. eds. (1997) In: *Biodiversity: A Ecological Perspective*. Springer-Verlag, N.Y., USA.

TABATA, Hideo 田端英雄

田端英雄編 (1997) 里山の自然、保育社

WADA, Eitaro & FUJITA, N. 和田英太郎・藤田昇

Wada, E., Timoshkin, O. A. Fujita, N. and Tanida, K. (1997) *New Scope on Boreal Ecosystems in East Siberia*. (DIWPA series Vol.2) Siberian Branch, Russian Academy of Sciences, Novosibirsk, Russia.

その他

HIGASHI, Masahiko 東正彦

東正彦 (1997) エコシステムと微生物. 日本生態学会誌 47: 93-96.

INOUE, Tamiji 井上民二

- 井上民二 (1997) 熱帯雨林の一斉開花. 随想森林 36: 39-41.
井上民二 (1997) 「熱帯生態学」一斉開花 高さ 70 メートルの林冠で最大の謎に挑む. SCIS 6: 76-77. 朝日新聞社.
井上民二 (1997) 生物多様性の世界 - 1. 素朴な「なぜ」が復活. 日本経済新聞 (夕刊). 1997/01/04.
井上民二 (1997) 生物多様性の世界 - 2. データ不在、対応難しく. 日本経済新聞 (夕刊). 1997/01/11.
井上民二 (1997) 生物多様性の世界 - 3. 生態系の生産性に影響. 日本経済新聞 (夕刊). 1997/01/18.
井上民二 (1997) 生物多様性の世界 - 4. 貴重なアジアの海・森林. 日本経済新聞 (夕刊). 1997/01/25.
井上民二 (1997) 熱帯林の環境変動と一斉開花. 文部時報 1442: 44-45.
井上民二 (1997) 生物多様性の世界 - 5. 貴重なアジアの海・森林. 日本経済新聞 (夕刊). 1997/02/01.
井上民二 (1997) 生物多様性の世界 - 6. 花と昆虫の蜜月始まる. 日本経済新聞(夕刊). 1997/02/08.
井上民二 (1997) 生物多様性の世界 - 7. 1対1の特殊な共生. 日本経済新聞(夕刊). 1997/02/15.
井上民二 (1997) 生物多様性の世界 - 8. 生物が作る熱帯の「季節」. 日本経済新聞 (夕刊). 1997/02/22.
井上民二 (1997) 一斉に花を咲かせる. 東南アジアの熱帯雨林. ジュニア朝日年鑑 (1997・1998): 81-85. 朝日新聞社.
井上民二 (1997) 生物多様性の世界 - 9. 動植物間の複雑な軍拡. 日本経済新聞 (夕刊). 1997/03/01.
井上民二 (1997) 生物多様性の世界 - 10. 長所もちより異種共生. 日本経済新聞 (夕刊). 1997/03/08.
井上民二 (1997) 生物多様性の世界 - 11. 個体の共存で社会維持. 日本経済新聞 (夕刊). 1997/03/15.
Inoue, T. (1997) Field sessions put students into outdoors Environmental Center seeks Ways to train urban generation. The Nikkei Weekly. 1997/03/17.
井上民二 (1997) 生物多様性の世界 - 12. 価値認識し保全努力を. 日本経済新聞 (夕刊). 1997/03/22.
井上民二 (1997) 生物多様性の世界 - 13. 「エコツアー」の試み. 日本経済新聞 (夕刊). 1997/03/29.
井上民二 (1997) 生物多様性の世界 - 14. “工場”で資源管理・探査. 日本経済新聞 (夕刊). 1997/04/05.
井上民二 (1997) 二十一世紀の花鳥風月. 中央公論 7: 242-263.
永光輝義; 百瀬邦泰; 井上民二 (1997) マレーシア・ランピルの低地雨林にみられる送粉システムとハナバチによる花資源の利用. 個体群生態学会会報 54: 47-52.
井上民二 (1997) 林冠 - もうひとつの生物世界. 植物の繁殖フェノロジーと送粉共生. 森林科学 20:14-23.

KIKUZAWA, Kihachiro 菊沢喜八郎

- 菊沢喜八郎 1997 書評 岩槻邦男著 文明が育てた植物たち 科学 68: 95-97
菊沢喜八郎 1997 木の葉の働き 林業技術 663: 7-10

Ooi, Kazuyuki 大井和之

- Yahara, T. and Ooi, K. (1997) Virus infection and the evolution of sex in flowering plants. Journal of Reproduction and Development, 43(Supplement): 9-10.

宮脇博巳・石井いずみ・大井和之・山本好和・木下靖浩・矢原徹一（1997）分離培養された地衣共生菌・共生藻、新鮮な地衣体、人工的に60℃で乾燥した地衣体からもDNAは抽出される。佐賀大学文化教育学部研究論文集 第2集 第1号 pp.101-104.

SHIMIZU, Isamu 清水勇

清水勇（1996）クモの多様な求愛・配偶行動. 遺伝 50:42-46.

清水勇（1996）魚類の視覚適応の化学生態学的研究—アユの眼におけるレチナ・ル化合物の割合と視物質遺伝子(exon-4)から推定されたアミノ酸シ・クエンズ.文部省科学研究費（一般研究 A05403003）補助金成果報告書.pp112-124.

清水勇（1997）環境光スペクトルの高感度瞬時測定装置の紹介. 京都大学生態学研究センター・ニュース No. 47:2-3.

TABATA, Hideo 田端英雄

田端英雄：「里山の自然とその保全」環境緑化新聞 1997年10月15日「新ステージに挑む—環境・景観の時代—」第45回。

田端英雄：「中山間地農林業の評価—豊かな生物相保全の機能」全国農業新聞 1997年9月26日農声「特集・新基本法へ、私の注文（7）」

WADA, Eitaro 和田英太郎

和田英太郎（1997）窒素安定同位体による生物地球化学的研究. 地球化学、Vol.31、No.1、日本地球化学会、pp.17-25.

Yumoto, T., Inoue, T., Nakashizuka, T. and Wada, E. (1997) DIWPA (The International Network for DIVERSITAS in Western Pacific and Asia) activities in 1993-1996. Researches Related to the UNESCO's Man and the Biosphere Programme in Japan 1996-1997, Coordinating Committee on MAB Programme, 67-70.

Wada, E. (1997) Stable isotopes in the environment. Proceedings of the Trans-disciplinary Forum on Science and Technology for the Global Environment - Environmental Measurement and Analysis - , Japan Science and Technology Corporation, 111-115.

和田英太郎（1997）同位体比法は生態学で何をめざすのか. 月刊海洋、Vol.29、No.7、pp.436-442.

小川奈々子、木庭啓介、高津文人、和田英太郎（1997）自然生態系における炭素・窒素安定同位体存在比. RADIOISOTOPES, Vol.46, No.9, 632-644.

和田英太郎（1997）安定同位体と生態システム. The TRC News, No.61, 1-12.

和田英太郎（1997）有機物：粒子の炭素・窒素同位体比. 地球化学の発展と展望、藤原鎮男編、東海大学出版会、pp.231-237.

YAMAMURA, Norio 山村則男

山村則男（1997）動物の社会行動とゲーム. In: 数理生態学. (ed. by 巖佐庸). pp 121 - 131. 共立出版、東京.

山村則男（1997）動物生態学. In: 動物行動学がわかる. (ed. by 大森千明). pp12-13. 朝日新聞社、東京.

YUMA, Masahide 遊磨正秀

遊磨正秀（1997）ホタルと人の水環境. 第31回日本水環境学会セミナー「生き物から水環境を見る」講演資料集, 72-81. 1997年2月, 東京.

遊磨正秀（1997）生き物と人の水辺 - 水田農耕とのかかわりにおいて -. In: ビオトープの計画と設計 - 生物生息環境創造 -. pp. 86-96. 工業技術会, 東京.

- 遊磨正秀・嘉田由紀子・藤岡康弘 (1997) 水辺の遊びにみる生物相の時代変遷と意識変化 - 住民参加による三世代調査報告書 - . 琵琶湖博物館研究調査報告 9: 1-207.
- 遊磨正秀 (1997) 科学と産業情報の功罪? - 情報のわかりやすさ (= 平準化) は異質性をなくす - . 全国ホテル研究会情報交換誌 19: 10-12.
- 遊磨正秀 (1997) 身近な水辺の生物群集 - 水田農耕とのかかわりにおいて - . 都市及びその周辺地域における健全な水循環の再生と望ましい水環境の創造に関する研究 (土木学会関西支部水循環研究会) 28-33.
- Yuma, M. (1997) Conservation of aquatic biodiversity and human culture: An attempt at joint study with local residents. In: International Conference on Ancient Lakes (ed. by Lake Biwa Museum), Abstracts, pp. 117-118. Lake Biwa Museum, Kusatsu City.
- 山本敏哉・遊磨正秀 (1997) 琵琶湖における近年の環境変化が在来魚種に与える影響. 遺伝 51(9): 49-54.
- 遊磨正秀 (1997) 心に残る生き物 - ホタル - . In: 安定社会の総合研究 - ことがおこる・つづく / なかだちをめぐって - (ed. by 横山俊夫; 三浦國雄; 遊磨正秀; 藤井譲治; 川那部浩哉). pp. 87-112. 第8回京都国際セミナー報告書. 京北町.
- 遊磨正秀 (1997) 生物の多様性・文化の多様性・学問の多様性. 京大広報 519(1997.12):398

YUMOTO, Takakazu 湯本貴和

湯本貴和 (1997) 熱帯雨林「地上 70 メートル」の楽園、月刊現代 31(12): 5-9.

B . Research Students and Fellows 大学院生・研修員

原著論文

HOSHIZAKI, Kazuhiko 星崎和彦

Hoshizaki, K.; Suzuki, W.; Sasaki, S. (1997) Impacts of secondary dispersal and herbivory on seedling survival in *Aesculus turbinata*. *Journal of Vegetation Science* 8: 735-742.

INOUE, Tetsushi 井上徹志

Inoue, T., K. Murashima, J.-I. Azuma, A. Sugimoto and M. Slaytor (1997) Cellulose and xylan utilization in the lower termite *Reticulitermes speratus*, *J. Insect Physiol.* 43: 235-242

Inoue, T.; Vijarnsorn, P.; Abe, T. (1997) Mound structure of the fungus-growing termite *Macrotermes gilvus* in Thailand. *Journal of Tropical Ecology* 13:115-124.

NATSUMEDA, Takaharu 栗田孝晴

Natsumeda, T., Kimura, S. and Nagata, Y. (1997) Sexual size dimorphism, growth and maturity of the Japanese fluvial sculpin, *Cottus pollux* (large egg type) in the Inabe River, Mie Prefecture, central Japan. *Ichthyological Research* 44: 43-50.

NOMA, Naohiko 野間直彦

Noma, N. (1997) Annual fluctuations of sapfruits production and synchronization within and inter species in a warm temperate forest on Yakushima Island. *Tropics* 6(4): 441-449.

Noma, N. & Yumoto, T. (1997) Fruiting phenology of animal-dispersed plants in response to winter migration of frugivores in a warm temperate forest on Yakushima Island, Japan. *Ecological Research* 12: 119-129.

野間直彦 (1997) 種子散布をめぐる植物と鳥類・哺乳類の共生関係 - 屋久島での研究から - . 霊長類研究 13: 137-147.

Suzuki, E., Hotta, M., Partomihardjo, T., Sule, A., Koike, F., Noma, N., Yamada, T. & Kaji, M. (1997) Ecology of tengkawang forests under varying degrees of management in West Kalimantan. *Tropics* 7: 35-53.

NOZAKI, Kentaro 野崎健太郎

中本信忠・池田大介・田口香代・山本満寿夫・野崎健太郎 (1997) : 河川を水源とする緩速ろ過池と貯水池を水源とする緩速ろ過池の藻類被膜の発達の違い. 日本水処理生物学会誌, 33 (2): 81-90.

山田佳裕・野崎健太郎 (1997) : 炭素・窒素安定同位体比精密測定法を用いた琵琶湖生態系の解析. 月刊海洋, 29 (7): 399-407.

Nakamoto, N.; N. Iwase; K. Nozaki and M. Sakai (1997): Inconsiderable amount of phytoplankton leakage by algal mat peeling from a slow sand filter. *Japanese J. Wat. Tret. Biol.*, 33 (4): 179-186.

OGAWA, Nanako 小川奈々子

Ogawa, N.; Ogura, N. (1997) Dynamics of particulate organic matter in the Tamagawa Estuary and Inner Tokyo Bay. *Estuarine, Coastal Shelf Sci.* 44: 263-273.

小川奈々子; 木庭啓介; 高津文人; 和田英太郎 (1997) 自然生態系における炭素・窒素安定同位体比. *Radioisotopes*. 46: 632-644.

Yoshii, K.; Ogawa, N.; Wada, E.; Mekhanikova, I.; Melnik, N.G.; Timoshkin, O.A.; Shubenkov, S.G.; Smirnov, V.V.; Smirnova-Zalmi, N.S. (1997) ^{15}N and ^{13}C abundances in Lake Baikal: Difference between the littoral and pelagic food webs. In: *Animal Community, Environment and Phylogeny in Lake Baikal*. (ed. by N. Miyazaki, N.). pp. 107-113. Otsuchi Marine Research Center, Oceans Research Institute, The University of Tokyo.

OKUDA, Noboru 奥田昇

Okuda, N. (1997) A consequence of female-female competition in a paternal mouthbrooding fish *Apogon notatus*. *Ethology, supplement* 32: 237

Okuda, N., T. Takeyama and Y. Yanagisawa (1997) Age-specific filial cannibalism in a paternal mouthbrooding fish. *Behav. Ecol. Sociobiol.*, 41: 363-369

SEKINO, Tatsuki 関野樹

Ishida, Y., Tsuge, S., Ohtani, H., Sekino, T., Nakanishi, M. and Kimoto, T. (1996) Discriminative analysis of zooplankton individuals by pyrolysis-gas chromatography combined with on-line methylation. *Analyst* 121: 853-856.

Nakano, S., Sekino, S., Kawabata, K., Mitamura, O. and Nakanishi, M. (1996) Spatial and temporal changes in abundance of phytoplankton. *Lake Biwa Study Monographs, Special Issue on Baseline Data Overviews of BITEX '93*, pp.133-146.

Nakano, S., Seike, Y., Sekino, T., Okumura, M., Kawabata, K., Fujinaga, K., Nakanishi, M., Mitamura, O., Kumagai, M. and Hashitani, H. (1996) A rapid growth of *Aulacoseira granulata* (Bacillariophyceae) during the typhoon season in the south basin of Lake Biwa. *Jpn. J. Limnol.* 57: 493-500.

Nakanishi, M. and Sekino, T. (1997) Recent drastic changes in Lake Biwa. Bio-communities, with special attention to exploitation of the littoral zone. *GeoJournal*, 40: 63-67.

中西 正己・関野 樹 (1997) 琵琶湖水質の生物学的特徴. *環境技術* 26: 485-489.

Sekino, T., Nakanishi, M., Ishida, Y., Tsuge, S., Ohtani, H. and Kimoto, T. (1997) Inter- and intra-specific difference in fatty acid composition of freshwater crustacean zooplankters. *Freshwater Biol.* 38: 611-618.

その他

NOMA, Naohiko 野間直彦

野間直彦 (1997) 種子散布にみる植物との共生. In: 山岸哲編「鳥類生態学入門」, pp.128-142. 築地書館.

野間直彦 (1997) 鳥とけものがつくる照葉樹林 - 動物による種子散布の生態 -. In: 特別展解説書「南の森の不思議な生きもの - 照葉樹林の生態学 - 」, pp.107-111. 千葉県立中央博物館.

YAMAMOTO, Toshiya 山本敏哉

山本敏哉・遊磨正秀 (1997) 琵琶湖における近年の環境変化が在来魚種に与える影響. 遺伝. 51(9): 49-54

C. Guest Scientists 協力研究員

DOI, Teruo 土肥昭夫

1. Endo, A., T. Doi and A. Shiraki. (1997) Post copulative guarding: mating behavior of non-territorial male sika deer (*Cervus nippon*) in an enclosure. Appl. Anim. Behav. Science. 54(2/3):257-263.
2. 馬場稔・土肥昭夫・河野淳一・志水輝昭 (1997.3) ニホンカモシカの糞場利用. Bull.Kitakyushu Mus.Nat.His.,16:105-111.
3. 土肥昭夫・伊澤雅子・遠藤晃・城間恒宏・辻高史 (1997.3) 区画法を用いた慶良間諸島におけるケラマジカ *Cervus nipponkeramae* の生息数推定の試み. 沖縄島嶼研究. 15:63-72.
4. 土肥昭夫・伊澤雅子. (1997.9) ツシマヤマネコの現在と未来. どうぶつと動物園. 49(9):288 - 294.
5. 伊澤雅子・土肥昭夫. (1997.10) イエネコからのウイルス感染—ツシマヤマネコは生き残れるか? 科学.67(10):705-707.
6. 土肥昭夫(1997)「哺乳類の生態学」(共著)総頁 264, 東京大学出版会, 東京.

HARAGUCHI, Akira 原口昭

1. Tomizawa, H. Oikawa, M. Nishio, F. and Haraguchi, A. (1997) Chemical modification of rain water by *Alnus japonica* wetland forest in Kiritapp Mire, eastern Hokkaido, Japan. Journal of Forest Research, 3: 189-192.
2. 原口昭 (1997) 霧多布湿原の水質の概要. Kiritapp Reports 1:9-15.
3. 西島博樹・伊豫部勉・西尾文彦・原口昭・富沢日出夫 (1997) 春国岱における植生と地下部環境に関する解析. 釧路論集 29:41-52.
4. 伊豫部勉・西尾文彦・西島博樹・原口昭・富沢日出夫 (1997) 海霧を媒体とした湿原生態系への海塩輸送に関する基礎研究. 釧路論集 29:53-75.

IMAI, Ichiro 今井一郎

1. 今井一郎 (1997) ラフィド藻の生活史. In: 赤潮の科学-第2版. (ed. by 岡市友利). pp.69-76, 恒星社恒星閣, 東京,
2. Itakura, S., K. Nagasaki, M. Yamaguchi and I. Imai (1996) Cyst formation in the red tide flagellate *Heterosigma akashiwo* (Raphidophyceae). J. Plankton Res. 18: 1975-1979.
3. 今井一郎・山口峰生 (1997) 大阪湾における海洋細菌の現存量と生産量. 南西水研研報 30: 173-181.
4. Itakura, S., I. Imai and K. Itoh (1997) "Seed bank" of coastal planktonic diatoms in bottom sediments of Hiroshima Bay, Seto Inland Sea, Japan. Mar. Biol. 128: 497-508.
5. Yamaguchi, M., S. Itakura, K. Nagasaki, Y. Matsuyama and I. Imai (1997) Effects of temperature and salinity on the growth of the red tide flagellates *Heterocapsa circularisquama* (Dinophyceae) and *Chattonella verruculosa* (Raphidophyceae). J. Plankton Res. 19: 1167-1174.
6. 今井一郎 (1997) 直接接触攻撃型殺藻細菌による海産植物プランクトンの殺藻様式. 日本プランクトン学会報 44: 3-9.
7. Nagai, S. and I. Imai (1997) The effect of irradiance and irradiation time on the size of initial cells in vegetative cell enlargement of *Coscinodiscus wailesii* (Centrales, Bacillariophyceae) in culture. Phycol. Res. 45: 117-121.
8. 今井一郎・長崎慶三・中桐 栄 (1996) 有害赤潮渦鞭毛藻 *Heterocapsa circularisquama* の増殖を阻害する微生物の検出および分離. 渦鞭毛藻・ラフィド藻等新型赤潮の発生機構と予測技術の開発に関する研究, 平成7年度研究報告書. pp.36-41.
9. 今井一郎・板倉 茂・松山幸彦・山口峰生 (1996) 新型赤潮ラフィド藻 *Chattonella verruculosa* の増殖におけるセレンの要求. 渦鞭毛藻・ラフィド藻等新型赤潮の発生機構と予測技術の開発に関する研究, 平成7年度研究報告書. pp.42-50.
10. 今井一郎 (1997) 殺藻細菌の抗体等による生態解析-天然海水中における接触攻撃型殺藻細菌の挙動および殺藻阻害細菌の分離. 平成8年度海洋微生物活用技術開発試験報告書. pp.121-137.

INUBUSHI, Kazuyuki 犬伏和之

1. Inubushi, K.; Hori, K.; Matsumoto, S.; Wada, H. (1997) Anaerobic decomposition of organic carbon in paddy soil in relation to methane emission to the atmosphere. Water Sci. Tech. 36: 523-530. [flooded rice soil, organic matter, methane production, CO₂ production]
2. Shibahara, F.; Inubushi, K. (1997) Effects of organic matter application on microbial biomass and available nutrients in various types of paddy soils. Soil Sci. Plant Nutr. 43: 191-203. [flooded rice soil, microbial biomass, nitrogen dynamics, turn-over time]
3. 犬伏和之 (1997) 環境中の元素・分子、特集・バイオテクノロジーによる環境浄化、遺伝、51: 11-16. [親生物元素、物質循環、窒素、炭素、リン]
4. Inubushi, K.; Shibahara, F.; Hasegawa, K.; Yamamuro, S. (1997) Dynamics of microbial biomass nitrogen in paddy soil and plant uptake as influenced by organic matter application. In: Plant Nutrition for Sustainable Food Production and Environment (ed. by Ando, T. et al.). Developments in Plant and Soil Sciences, Vol. 78, pp. 777-778. Kluwer Academic Publishers, Dordrecht. [flooded rice soil, microbial biomass, nitrogen dynamics]
5. Inubushi, K.; Hadi, A. (1997) Preliminary study on nitrous oxide behavior in tropical peat soils, Researches Related to the UNESCO's Man and Biosphere Programme in Japan 1996-1997, pp. 7-10. [N₂O, moisture, nitrification, denitrification, organic substance]
6. 犬伏和之 (1997) 環境と調和した持続可能な生産活動、科学技術庁科学技術政策研究所、NISTEP Report No. 52、我が国における技術発展の方向性に関する調査報告書、pp. 515-516. [未来予測、生物生産、環境保全、持続可能性]
7. 犬伏和之 (1997) 窒素の動態、土の環境圏、第1編第9章第3節、pp. 223-228、フジ・テクノシステム、東京. [土壌微生物、窒素固定、硝化、脱窒]

8. 坂本一憲・犬伏和之 (1997) : 第・章 - 10 . 土壌バイオマス , pp.146-156 . 土壌環境分析法 , 博友社 , 東京. [土壌微生物バイオマス、クロロホルム燻蒸法]

ITINO, Takao 市野隆雄

1. 市野隆雄 (1997) ドロバチ類の個体群動態に関する比較生態学的研究. 香川大学農学部紀要 62: 1-206.
2. 市野隆雄 (1997) 「共進化する群集」という視点 . 生物群集を考える ニュースレター 5: 23-25.
3. Yumoto, T.; Itino, T.; Nagamasu, H. (1997) Pollination of hemiparasites (Loranthaceae) by spider hunters (Nectariniidae) in the canopy of a Bornean tropical rainforest. *Selbyana* 18(1): 51-60.
4. Sakai, S.; Momose, K.; Nagamitsu, T.; Harrison, R. D.; Yumoto, T.; Itino, T.; Kato, M.; Nagamasu, H.; Hamid, A. A.; Inoue, T. (1997) An outline of plant reproductive phenology in one episode of general flowering cycle in 1992-1996 in Sarawak, Malaysia, In Inoue, T. and Hamid, A. A. (eds), *General flowering of tropical rainforests in Sarawak, Canopy Biology Program in Sarawak (CBPS): Series II*, pp. 117-146. Center for Ecological Research, Kyoto University, Otsu.

ITIIOKA, Takao 市岡孝朗

1. Hashimoto, Y.; Yamane, Sk.; and Itioka, T. (1997) A preliminary study on dietary habits of ants in a Bornean rain forest. *Japanese Journal of Entomology* 65: 688-695.
2. Itioka, T.; Inoue, T.; Matsumoto, T.; and Ishida, N. (1997) Biological control by two exotic parasitoids: eight-year population dynamics and life tables of the arrowhead scale. *Entomologia Experimentalis et Applicata* 85: 65-74.
3. Mizuno, M.; Itioka, T.; Tatematsu, Y.; and Ito Y. (1997) Food utilization of aphidophagous hoverfly larvae (Diptera: Syrphidae, Chamaemyiidae) on herbaceous plants in an urban habitat. *Ecological Research* 12: 239-248.
4. 市岡孝朗 (1997) サラワク・ランビル国立公園の生態調査. *昆虫と自然* 32(14): 31-34.
5. 市岡孝朗 (1997) アリとカイガラムシ - 個体群の特性に影響を与える共生関係 -. *生物科学* 49: 131-138.
6. 市岡孝朗 (1997) (分担執筆) 植物保護の事典. (ed. by 本間保男・宮田正・佐藤仁彦・岡崎正規). 朝倉書店, 東京.

IWASA, Yoh 巖佐庸

1. Nakamaru, M., H. Matsuda and Y. Iwasa. 1997. The evolution of cooperation in a lattice-structured population. *Journal of theoretical Biology* 184: 65-81. [利他行動の進化、格子モデル]
2. Iwasa, Y. and T. Kubo. 1997. Optimal size of storage for recovery after unpredictable disturbances. *Evolutionary Ecology* 11: 41-65. [攪乱、回復、貯蔵器官の最適サイズ]
3. Mochizuki, A., Y. Takeda, H. Ide and Y. Iwasa. 1997. A stochastic model for cell sorting and its application. *Forma* 12:107-122. [細胞選別、接着力測定]
4. Takeda, Y. and Y. Iwasa. 1997. A neural network modeling for concentration-dependent pair-rule gene expression. *Forma* 12:123-142. [ショウジョウバエ、ペアルール遺伝子発現、ニューラルネットワーク]
5. Klinkhamer, P.G.L., Y. Iwasa, T. Kubo and T. de Jong. 1997. Herbivores and the evolution of the semelparous perennial life-history of plants. *Journal of evolutionary Biology* 10: 529-550. [一回繁殖、成り年、最適繁殖スケジュール、植食者回避]

6. Takenaka, Y., H. Matsuda and Y. Iwasa. 1997. Competition and evolutionary stability of plants in a spatially structured habitats. *Researches on Population Ecology* 39: 67-75. [格子モデル、植物の共存と進化]
7. Iwasa, Y., A. Mochizuki and Y. Takeda. 1997. Evolution of genomic imprinting: Why are so few genes imprinted ? *Journal of Reproduction and Development* 43 Suppl. 15-16. [ゲノム刷込み、遺伝子間のコンフリクト]
8. Harada, Y., S. Kawano and Y. Iwasa. 1997. Probability of clonal identity: inferring the relative success of sexual vs. clonal reproduction from spatial genetic patterns. *Journal of Ecology* 85:591-600. [同一クローン確率、栄養繁殖率推定、植物、遺伝マーカー]
9. Suzuki, H. and Y. Iwasa. 1997. GA Performance in a Babel-like Fitness Landscape. *Proceedings of the Ninth IEEE International Conference on Tools with Artificial Intelligence*. Los Alamitos, CA: IEEE Computer Society Press. pp.357-366 [G A、組換え率進化、新機能の探索、進化速度]
10. Ezo, H. and Y. Iwasa. 1997. Evolution of condition-dependent dispersal: a genetic algorithm search for the ESS reaction norm. *Researches on Population Ecology* 39:27-38.
11. Yamauchi, A., Y. Matsumiya and Y. Iwasa. 1997. The optimal age-dependent sustainable fishery. *Researches on Population Ecology* 39:39-48.
12. 巖佐 庸 1997. 種生物学研究における数理生物学の役割 . 種生物研究 20:81-88.
13. 巖佐 庸・箱山 洋 1997. 保全生物学の数理モデル . 月刊海洋 29:309-314.
14. 巖佐 庸 1997. 数理生態学への招待：生命の物理学的理解をめざして . 『数理生態学』(巖佐庸編) シリーズ：ニューバイオフィジックス第 10 巻 (共立出版) (編集および総論の執筆) p.1-16.

IWASAKI, Keizi 岩崎敬二

1. Iwasaki, K. (1997) Climbing behaviour and tolerance to aerial exposure of a freshwater mussel, *Limnoperna fortunei*. *Venus (Jpn. J. Malacol.)* 56: 15-25. [behaviour, exposure tolerance, freshwater mussel]
2. Iwasaki, K. (1997) Vertical distribution and life cycle of two free-ranging, rocky intertidal polychaetes. *Benthos Res.* 52: 47-60. [free-ranging polychaetes, life cycle, rocky intertidal, vertical distribution]
3. 岩崎敬二; 大塚泰介; 中山耕至 (1997) 賀茂川中流域の川岸植物群落内の中・大型水生動物群集. 陸水学雑誌 58: 277-291. [川岸湿性植物群落、流程分布、季節的变化、水生動物群集]
4. 岩崎敬二 (1997) 時差出勤のミラクル. In: 貝のミラクル. (ed. by 奥谷喬司). pp. 1-17. 東海大学出版会, 東京. [笠貝、活動リズム、個体差、行動、種間関係]

KAWANABE, Hiroya 川那部浩哉

734) 吉良竜夫 ; 川那部浩哉 (1996) 琵琶湖の自然と文化 . 関西自然保護機構会報, 18(2): 141-152.

735) Kawanabe, H. (1996) International Scientific Programme on Biodiversity and DIWPA as its regional network. In: *Biodiversity Research and its Perspective in the East Asia* (ed. by Lee, B.-H., Kim, T.-H. & Sun, B.-Y.), 25-31. Korean Institute for Biodiversity Research (KIBIO), Chonbuk National University, Korea.

735a) 川那部浩哉 (1996) 関係の連鎖の総体を考えるための博物館を目指して. In : これからの自然史 (誌) 博物館 : 生命の星・地球博物館一周年記念論集, 133-140. オールプランナー, 小田原.

1997年

- 736) 川那部浩哉 (1997) 1997年わたしのキーワード：華麗なる沈潜．京都新聞, 1997/1/ 1.
- 737) 川那部浩哉；近藤功 (1997) 湖と人が共に生きるよりよい関係をめざして．湖, 120: 11-23.
- 738) 川那部浩哉 (1997) 「人間と湖のつきあい方」を考えられる場になれば・・・．滋賀民報, 1997/1/ 5.
- 739) 川那部浩哉 (1997) 琵琶湖の環境再生．中日新聞, 1997/1/ 9.
- 740) 川那部浩哉 (1997) 1996年読書アンケート．みすず, 430: 65-66.
- 741) 川那部浩哉；栗本英世 (1997) 歴史的な生命体、琵琶湖へのいざない．みんぱく, 1997(2): 2-7.
- 742) 川那部浩哉 (1997) 琵琶湖は自然遺産と同時に文化遺産だと思いますね．SUN, 45: 1.
- 743) 川那部浩哉 (1997) ごあいさつ．In: 博物館ができるまで, i. 滋賀県立琵琶湖博物館, 草津.
- 744) 川那部浩哉 (1997) タラル・ユネス国際生物科学連合事務局長の表敬訪問．学術の動向, 1997(3): 88-89.
- 745) 川那部浩哉 (1997) 今月のことば：問いの世界には自由がある、答えの世界には自由がない．小学校時報, 1997(547): ii.
- 746) Kawanabe, H., Hori, M. & Nagoshi, M. ed. (1997) Fish Communities in Lake Tanganyika. 7+298pp. Kyoto University Press, Kyoto.
- 747) Kawanabe, H. (1997) Preface. In: Fish Communities in Lake Tanganyika (ed. by Kawanabe, H., Hori, M. & Nagoshi, M.), 1-2. Kyoto University Press, Kyoto.
- 748) 川那部浩哉 (1997) 生物多様性の科学．学士会会報, 815: 121-125.
- 749) 川那部浩哉；Talal Younes (1997) 生物多様性は、命の賑わいそのものです．うみんど, 2: 2-3.
- 750) Yuma, M. & Kawanabe, H. ed. (1997) Ecological factors promoting biodiversity in Lakes Biwa, Baikal, Tanganyika and Malawi. 119 pp. Centre for Ecological Research, Kyoto University, Otsu.
- 751) 川那部浩哉 (1997) 「色眼鏡」を掛けて「多色」をみよう．Security, 85: 1.
- 752) 川那部浩哉 (1997) 琵琶湖からの発信．Magazines Today / Ecology, Y24, Y28-29.
- 753) 川那部浩哉 (1997) はじめに．In: 水辺の遊びにみる生物相の時代変遷と意識変化：住民参加による三世代 調査報告書．(ed. by 遊磨正秀；嘉田由紀子；藤岡康弘)．琵琶湖博物館研究調査報告, 9: v.
- 754) 川那部浩哉 (1997) 不思議なひと．In: 追悼土倉九三 (ed. by 土倉九三氏追悼文集編集委員会), 219-221. 土倉事務所, 京都.
- 755) 川那部浩哉 (1997) ごあいさつ．In: 古代湖の世界, 1. 滋賀県立琵琶湖博物館, 草津.
- 756) 川那部浩哉・高橋裕・宮村忠・守田優・奥田重俊・北村真一 (1997) 河川事業と生物 (上)．にほんのかわ, 77: 4-30.
- 757) 川那部浩哉・高橋裕・宮村忠・守田優・奥田重俊・北村真一 (1997) 河川事業と生物 (下)．にほんのかわ, 78: 4-30.
- 758) 川那部浩哉 (1997) 宇治分校のころ．In: 京都大学の世紀：1897-1997, 71-75. 紫翠会出版, 京都.
- 759) 川那部浩哉 (1997) アジア地域の環境保全．学術月報, 50: 80-81.
- 760) 川那部浩哉 (1997) 一動物生態学者のみた依田恭二さん．In: 依田先生を偲んで．滋賀県立大学環境科学部依田先生追悼の会実行委員会, 彦根.
- 761) 川那部浩哉 (1997) 関西の博物館 1 滋賀県立琵琶湖博物館 館長インタビュー．Culture, Energy and Life, 41: 111-112.
- 762) 小川四良；川那部浩哉 (1997) 沖島の漁業の変遷など．うみんど, 3: 2-3.
- 763) 川那部浩哉 (1997) 背丈が縮んだ弁．電気学会誌, 117: 587.
- 764) Kawanabe, H. & Leveque, C. (1997) Indicators of ecosystem health. Biodiversity Bulletin, 3: 11.
- 765) 川那部浩哉 (1997) はじめに．In: 生物多様性と地球環境問題：21世紀の環境都市関西を拓く. 1-2. 地球環境関西フォーラム, 大阪.
- 766) 川那部浩哉・藤島陽一 (1997) ”曖昧”のすすめ—魚の生態に見た競争と共存の原理．公研, 35(9): 42-57.

- 767) 横山俊夫；三浦国雄；遊磨正秀；藤井譲治；川那部浩哉 編 (1997) 安定社会の総合研究：ことがおこる・つづく／なかだちをめぐって.181 pp. 京都ゼミナ - ルハウス, 京北.
- 768) 川那部浩哉 (1997) 「もの」は「こと」が作りあげる. In：安定社会の総合研究：ことがおこる・つづく／なかだちをめぐって. (ed.by 横山俊夫；三浦国雄；遊磨正秀；藤井譲治；川那部浩哉), 12-20. 京都ゼミナ - ルハウス, 京北.
- 769) 川那部浩哉 (1997) 年報の発刊にあたって. 滋賀県立琵琶湖博物館年報, 1: 1-2.
- 770) 川那部浩哉；嘉田由紀子 (1997) 館長に聞く：世界古代湖会議をおわって.うみんど, 4: 2-3.
- 771) 川那部浩哉 (1997) 琵琶湖博物館での一年. 人環フォーラム, 3: 1.
- 772) 川那部浩哉 (1997) ごあいさつ. In：私とあなたの琵琶湖アルバム, 1. 滋賀県立琵琶湖博物館, 草津.
- 773) 川那部浩哉 (1997) 応用生態工学序説編集委員会編「応用生態工学序説－生態学と土木工学の融合を目指して」について. 河川, 1997(9): 60-61.
- 774) 川那部浩哉 (1997) 応用生態工学研究会会長川那部浩哉氏に聞く. 環境新聞, 1997/10/22.
- 775) 川那部浩哉 (1997) 伝統新時代：着物を安く大衆化を、着こなし多様化も. 京都新聞, 1997/11/8.
- 776) 川那部浩哉 (1997) 生物界における一と(二と)多. モルフォロギア：ゲーテと自然科学, 19: 2-11.
- 777) 川那部浩哉 (1997) 生物界にみる関係性と多様性. 日本ファジー学会誌, 9: 817-825.

KOGA, Tsunenori 古賀庸憲

1. Koga T. & Murai M. (1997) Size-dependent mating behaviours of male sand-bubbler crab *Scopimera globosa*: alternative tactics in the life history. *Ethology* 103: 578-587.

KOHDA, Masanori 幸田正典

1. Kohda, M (1997) Interspecific society among herbivorous cichlid fishes in Lake Tanganyika. In: *Fish Communities in Lake Tanganyika*. (eds, H. Kawanabe, M. Hori, M. Nagoshi pp, 107-120. Kyoto University Press, Kyoto.
2. Kohda, M., Hori, M. and Nshombo, M. (1997) Inter-individual variation in foraging behaviour and dimorphisms in Lake Tanganyika. (eds, H. Kawanabe, M. Hori, M. Nagosh) pp, 123-136. Kyoto University Press, Kyoto.
3. Matsumoto, K., Mabuchi, K., Kohda, M. and Nakabo, T. (1997) Spawning behavior and reproductive isolation of two species of *Pseudolabrus*. *Ichthyol. Res.* 44: 379-384.
4. Sakai, Y. and Kohda, M. (1997) Harem structure of the protogynous angelfish, *Centropyge furrugatus*(Pomacanthidae). *Env. Biol. fish.* 49: 333-339
5. Ohnishi, N., Yanagisawa, Y. and Kohda, M. (1997) Sneaking by harem masters of the sandperch, *Parapercis snyderi*. *Env. Biol. Fish.* 50: 217-223.

KONDO, Takaki 近藤高貴

1. Kondo, T. (1997) Taxonomic position and distribution of *Unio biwae*(Bivalvia: Unionidae). *Venus (Jap. Jour. Malac.)*, 56: 41-47.
2. 近藤高貴；吉原美穂；本持智子；山口弘 (1997) グロキディウム幼生殻体の石灰化. *Venus (Jap. Jour. Malac.)*, 56: 169-175.

3. Kondo, T.; Kumekawa, H.; Hori, M. (1997) Abundance of zooplankters on a rocky shore of Kasenga, southern end of Lake Tanganyika. Mem. Osaka Kyoiku Univ., Ser. III, 46: 77-82.
4. Fukuhara, S.; Kihira, H.; Matsuda, M.; Tabe, M.; Kondo, T. (1997) Breeding season of *Oguranodonta ogurae* (Bivalvia: Unionidae) in a small pond. Venus (Jap. Jour. Malac.), 56: 299-304.
5. Yuma, M.; Kondo, T. (1997) Interspecific relationships and habitat utilization among benthivorous cichlids. In Fish Community in Lake Tanganyika (ed. by Kawanabe, H., Hori, M. and Nagoshi, M.), pp. 87-103. Kyoto University Press, Kyoto.

MAKITA, Akifumi 蒔田明史

1. Makita, A. (1997) The regeneration process in the monocarpic bamboo, *Sasa* species. In: The Bamboos. (Chapman, G. P. ed.) Academic Press. pp. 135-145
2. 池田啓・蒔田明史(1997) 天然記念物整備活用事業 - エコ・ミュージアムの愛称をもつふれあいの場所づくり - . In: エコミュージアム理念と活動 (日本エコミュージアム研究会編) 牧野出版. pp.171-184.
3. 蒔田明史(1997) 天然記念物をいかに保全するべきか . 文化財の保護 29:11-22.
4. 蒔田明史(1997) チシマザサの地下茎の伸長様式 . Bamboo Journal. 14: 20-27.
5. Koike, T., Homma, T., Lei, T., Matsui, K. & Makita, A. (1997) Characteristics of the light response of photosynthetic rate in *Sasa kurilensis* seedlings. Bamboo Journal. 14: 15-19.
6. 蒔田明史(1997) 国際シンポジウム "The Bamboos" の報告 . Bamboo Journal 14: 67-71
7. 蒔田明史(1997) 天然記念物花ごよみ「荒川のカンヒザクラ自生地」文部時報平成9年1月号 . p4.
8. 蒔田明史(1997) 天然記念物花ごよみ「湯ノ宮の座論梅」文部時報平成9年2月号 . p4.
9. 蒔田明史(1997) 天然記念物花ごよみ「椈のシデコブシ自生地」文部時報平成9年3月号 . p4.
10. 蒔田明史(1997) 天然記念物花ごよみ「トラフダケ自生地・本谷のトラフダケ自生地」文部時報平成9年6月号 . p4.
11. 蒔田明史(1997) わがまちのみどり自慢「杉沢の沢スギ」FURUSATO Vitalization 平成9年3月号 . p32

MUKAI, Hiroshi 向井宏

1. Mukai, H., T. Suzuki and S. Nojima: Morphological implications of seagrass substratum for epifauna community in Rottnest, Western Australia. In: Seagrass Biology, Proceedings of an International Biological Workshop, Rottnest Island, Western Australia January 1996 (eds. D.I.Walker & H. Kirkman), p.1xx-1xx. (1997)
2. Nojima, S., T. Suzuki and H. Mukai: Feeding habits of fishes associated with a seagrass bed of Rottnest Island, Western Australia. In: Seagrass Biology, Proceedings of an International Biological Workshop, Rottnest Island, Western Australia January 1996 (eds. D.I.Walker & H. Kirkman), p.1xx-1xx.(1997)
3. Mukai, H.: Measurement of bioturbation rate in tube-building maldanid worms (Maldanidae: Polychaeta) with a visual observation system. Benthos Res., (submitted)
4. 菊地永祐・向井 宏: 「海底境界層の N, O 代謝に対する底生動物の作用 - 現場コア法による実験」平成6年度水質調査手法に関する調査研究(海底境界層予測手法に関する調査研究) 報告書 産業環境管理協会: 45-57 1995年3月
5. 池谷仙之・阿部勝巳・R.M. Ross・山口寿之・向井 宏・和田恵次・田中次郎(1997)「西部太平洋沿岸性甲殻類の生物地理とその成立過程」平成6年度~平成8年度科学研究費補助金(国際学術研究)研究成果報告書 pp.1-191
6. 向井 宏(1997)「底生生物による環境改変の定量化」平成7・8年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書 pp.1-108

7. 向井 宏 (1997) 「人工海底を利用した人工藻場創造技術の開発と基礎研究」 環境研究助成・成果報告書 (第 16 回・平成 7 年度) 第 2 分冊 水質関係 pp.235-261 ; 環境研究助成・成果概要(第 16 回・平成 7 年度) p.35 鉄鋼業環境保全技術開発基金
8. Mukai, H. and K. Hamamoto (1997) A comparative study of microdistribution of sessile epifauna on seagrass, *Syringodium isoetifolium* and *Halodule uninervis*, leaves and a calcareous green alga, *Halimeda incrassata*, thalli in Fiji Islands. In: Developmental Processes and material flow in tropical seagrass beds. ed. by I. Koike, Ocean Research Institute, the University of Tokyo, pp.1-201.

NAGANO, Yoshiharu 長野義春

1. Nagano, Y. (1997) Habitat selection of Bewick`s swans in the rice crop land of the Yasugi plain. The swans in Japan 22.43-48.
2. 長野義春 (1997) コハクチョウが昼間ネグラに残るのはなぜか. 1997 年度日本鳥学大会講演要旨集. 116.
3. 長野義春 (1997) コハクチョウのネグラとしてのエコロジーパーク. 公園緑地 58(2).27-31.
4. 長野義春 (1997) コハクチョウにとっての水田とは. ろうふく 217:8.
5. 長野義春 (1997) コハクチョウは農地で何をしているのか. なぎごえ 33(9):4-5.
6. 長野義春・雑賀英明 (1997) 中海における米子水鳥公園の設置とその利用. ラムサールシンポジウム新潟報告:230.
7. 長野義春 (1997) 米子水鳥公園とその鳥たち. 私たちの自然 422(1):5-7.

NAKAGOSHI, Nobukazu 中越信和

1. 中越信和 (1997) 景観システムの基礎的解析法の開発と標準化. 文部省科学研究費補助金基盤研究(A)研究成果報告書, 59pp+付録 163pp. 東広島.
2. 中越信和 (1997) 景観と生物多様性. In 生物の科学 遺伝 別冊 9 (矢原徹一・巖佐 庸・遺伝学普及会編) pp.41-47. 裳華房, 東京.
3. 中越信和 (1997) 芸北町の自然と生物相 - 継続調査が明らかにした生物多様性とその変化. 広島県文化財ニュース. 155 : 1-4. 広島県文化財協会, 広島.
4. 中越信和 (1997) 生業による自然保護を語る. 41pp. 緑と水の連絡会議, 大田.
5. 中越信和 (1997) 環境報道に望む. 中国新聞 1997/10/6
6. 中越信和; 鎌田磨人 (1997) 景観システムの基礎的解析と広島県の景観構造の把握. 比婆科学, 182 : 42-59.
7. 中越信和; 頭山昌郁; 内藤順一; 藤井 格; 高橋春成 (1997) 生物. 加計町史地誌編 (監修 村上誠) . pp.95-182, pp.620-622. 加計町, 加計町.
8. 中越信和; 清宮 浩; 春田章博; 葭葉吟子; 加藤一彦; 星子 隆 (1997) 欧州環境アセスメント現況調査報告書. 51pp. (社) 道路緑化保全協会, 東京.
9. 井田秀行; 中越信和 (1997) 広島県芸北町臥竜山ブナ原生林の台風被害. 高原の自然史, 2 : 45-57.
10. 石井正人; 中越信和 (1997) 森林公園計画における二次林の林冠木個体群構造と植生管理に関する研究. ランドスケープ研究, 60 : 543-546.
11. 前河正昭; 中越信和 (1997) 海岸砂地においてニセアカシア林の分布拡大がもたらす成帯構造と種多様性への影響. 日本生態学会誌, 47 : 131-143.
12. Nakagoshi, N. ; Naito, K. (1997) Traditional land use and threatened plants in rural landscape in Japan. Journal of International Development and Cooperation, 3 : 1-13.
13. Nakagoshi N.; Naito K. (1997) Plant conservation in grassland landscape of the Japanese national parks. In : Proceeding of the Second Conference on National Parks and Protected Areas of East Asia, Mobilizing Community Support for National Parks and Protected Areas in East Asia. pp.77-88. Japanese Organizing Committee for the Second Conference on National Parks and Protected Areas of East Asia, Tokyo.

14. Kamada, M.; Nakagoshi, N. (1997) Influence of cultural factors on landscapes of mountainous farm villages in western Japan. *Landscape and Urban Planning*, 37 : 85-90.
15. Maekawa, M.; Nakagoshi, N. (1997) Riparian landscape changes over a period of 46 years on the Azusa River in Central Japan. *Landscape and Urban Planning*, 37 : 37-43.
16. Manabe, T.; Naito, K.; Nakagoshi, N. (1997) Vegetation structure of a secondary grassland at a line corridor in Fukuchi Mountain System, Northern Kyushu. *Bull. Kitakyushu Mus. of Nat. Hist.*, 16 : 113-135.
17. Sharp, A. ; Nakagoshi, N. (1997) National parks and protected areas in Thailand. *Journal of International Development and Cooperation*, 3 : 53-67.
18. Touyama, Y.; Nakagoshi, N.; Yamamoto, T. (1997) Myrmecofauna of lucidophyllous forests in different developmental stages in southwestern Japan. *Ecological Reserch*, 12 : 131-138.

NISHIMURA, Noboru 西村登

1. 西村登・久後地平 (1997) 川の一組の瀬と淵にはどれくらいの数の川虫が棲んでいるのか．多自然研究，16:3-7.
2. 西村登・久後地平 (1997) 川の一組の瀬と淵にはどれくらいの数の川虫が棲んでいるのか．多自然研究，23:3-7.
3. 西村登・富平純・西脇茂利・倉田道雄・宮地新壘 (1997) 紀の川下流部の底生動物．兵庫陸水生物，48:33-52.
4. 西村登・久後地平 (1997) 川の単位形態内におけるヒゲナガカワトビケラ属 2 種の分布および一つの礫をめぐっての営巣状況 (予報)．兵庫陸水生物，48:27-32.

OHTAKA, Akifumi 大高明史

1. Ohtaka, A. and H. Kikuchi (1997) Composition and abundance of zoobenthos in the profundal region of Lake Kitaura, central Japan during 1980-1985, with special reference to oligochaetes. *Pub. Itako Hydrobiol. Stn.* 9: 1-14 [北浦，水生貧毛類，個体群動態]
2. 森尚仁・大高明史・齋藤捷一 (1997) 津軽十二湖湖沼群における動物プランクトン群集の季節変動．青森自然誌研究 2: 23-30 [津軽十二湖，動物プランクトン].
3. Ohtaka, A. and R. Usman (1997) Records of tubificid oligochaetes from Padang, West Sumatra, Indonesia, with description of a new species of *Aulodrilus Bretscher*. *Species Diversity* 2:145-154 [スマトラ，水生貧毛類，分類].
4. Ohtaka, A. and M. Nishino (1997) Aquatic oligochaete fauna in Lake Biwa, central Japan. 7th International Symposium on Aquatic Oligochaetes, University of Maine at Presque Isle, ME, USA, Abstract p. 4 [琵琶湖，水生貧毛類，ファウナ].

ONOHAMA, Keiichi 小野山敬一

1. Nakamura, N.; Ohsumi, N.; Onoyama, K.; Ogata, K.; Taylor, R. W. (1997) *Myrmecia measurementdata* (Insecta: Hymenoptera: Formicidae). *Data & Statistics in Student* 2: 55-66.
2. Onoyama, K. (1997) Taxonomic notes on the ant *Myrmecina nipponica* Wheeler stat. nov. *Res. Bull. Obihiro Univ. Nat. Sci.* 20: 151-153.
3. 三谷篤; 小野山敬一 (1997) 後臼歯の萌出・磨滅によるエゾシカの令推定 - 特に X 線写真を用いて - . 帯広畜産大学学術研究報告 (自然科学) 20: 155-163.
4. 小野山敬一 (1997) エゾナキウサギ保護の現状と問題. In: 大雪山のナキウサギ裁判(ed. by 大雪山のナキウサギ裁判を支援する会) pp. 45-58. 緑風出版, 東京.

5. Onoyama, K.; Ohsumi, N.; Mitsumochi, N.; Kishihara, T. (1997) Data analysis of deer-train collisions in eastern Hokkaido, Japan. In: Data Science, Classification, and Related Methods (ed. by Hayashi, C.; Ohsumi, N.; Yajima, K.; Tanaka, Y.; Bock, H.-H., Baba, Y.) pp. 746-751. Springer-Verlag, Tokyo.

SAIGUSA, Masayuki 三枝誠行

1. Saigusa, M. (1997) Hatching and its control by the circatidal clock in marine crustaceans. Proc. Arthropod. Embryol. Soc. Jpn. 32: 1-23.
2. Saigusa, M. (1997) The circatidal clock in an estuarine semi-terrestrial crab *Sesarma erythrodictylum*. Benthos Research 52 : 21-33.
3. Saigusa, M., and O. Kawagoye (1997) Circatidal rhythm of an intertidal crab *Hemigrapsus sanguineus*: synchrony with unequal tide height and involvement of light-response mechanism. Mar. Biol. 129 : 87-96.
4. Oishi, K., and M. Saigusa (1997) Nighttime emergence patterns in benthic and planktonic crustaceans in shallow sublittoral environment. J. Oceanogr. 53 : 611-621.

SAKAMOTO, Kazunori 坂本一憲

1. 坂本一憲 (1997) 土壤微生物バイオマスと土壤生産力 . In : 土づくりの基礎 . (ed. by 日本土壤協会) 168pp . 155-169 日本土壤協会 , 東京 .
2. 坂本一憲 (1997) 加熱処理土の特性 . In : 土の環境圏 . (ed. by 岩田進午他) 1388pp . 1006-1014 フジ・テクノシステム , 東京 .
3. 犬伏和之・坂本一憲 (1997) 土壤環境分析法 . In : 土壤バイオマス . (ed. by 日本土壤肥料学会・土壤環境分析法編集委員会) 427pp . 146-156 , 博友社
4. Sakamoto, K., Imai, A. and Machida, A. (1997) A rapid method for determining bacterial biomass on the root surface. In: Plant Nutrition - for Sustainable Food Production and Environment. (Developments in Plant and Soil Sciences vol. 78) (ed. by T. Ando et al. 982pp. 773-774 Kluwer, Dordrecht.
5. Suzuki, H., Sakamoto, K. and Yoshida, T. (1997) Arbuscular mycorrhizal infection decreases the free amino acid contents in the host plant. In: Plant Nutrition - for Sustainable Food Production and Environment. (Developments in Plant and Soil Sciences vol. 78) (ed. by T. Ando et al. 982pp. 775-776 Kluwer, Dordrecht.
6. 林 敦敏・坂本一憲・吉田富男 (1997) ヒドラジン還元法を用いた土壤中の硝酸態窒素量の迅速測定法 . 日本土壤肥料学雑誌 68 : 322-326 .
7. 坂本一憲・関 鋼・吉田富男 (1997) 各種畑土壌における作物吸収窒素に対する微生物バイオマスを經由した窒素の寄与 . 日本土壤肥料学雑誌 68 : 402-408 .

SAKIO, Hitoshi 崎尾均

1. 金子有子・酒井暁子・崎尾均・中村太士・鈴木和次郎 (共著・訳) (1997) 水辺林の保全と再生に向けて—米国有林の管理指針と日本の取り組み— . 218pp. 日本林業調査会 , 東京 .
2. 崎尾均 ; 鈴木和次郎 (1997) 水辺の森林植生 (溪畔林・河畔林) の現状・構造・機能および砂防工事による影響 . 砂防学会誌 49(6):40-48.
3. Sakio, H (1997) Effects of natural disturbance on the regeneration of riparian forests in a Chichibu Mountains, central Japan. Plant Ecology 132(2):181-195.
4. 小平弘孝 ; 岡由可理 ; 崎尾均 (1997) 山腹植栽工におけるケヤキの導入 . 第 33 回治山林道研究発表論文集 : 159-162.

TADAKI, Yoshiya 只木良也

1. 只木良也 (1997) 誤りだらけの森林・樹木の話．随想森林 36: 79-81 .
2. 只木良也 (1997) 初夢「森林省」．グリーン・エージ 277: 20-21
3. 只木良也 (1997) ことわざの生態学—森・人・環境考 (丸善ブックス 058) 228pp. 丸善, 東京 .
4. 只木良也 (1997) 生態学を味方にする (4) 都市環境と森林 . ARCHITECT 101: 4-5.
5. 酒井佳美 ; 只木良也 (1997) マダケ林とモウソウチク林における樹幹流と林内雨の成分特性 . Bamboo Jour. 14: 28-35.
6. 只木良也 (編著) (1997) 「森林と環境」に関する研究の現状と将来展望 . 平成 8 年度科学研究費 (基盤研究(B)(1)) 成果報告書 . 159pp.
7. 只木良也 (1997) ヒノキの文化史 . 日本のヒノキ, 木曾谷のヒノキ . 木曾ヒノキ林の将来 . In: 木曾ひのき (ed. by 只木良也 ; 小林寛義 ; 原田文夫 ; 平田利夫), 1-9, 11-23, 405-424. 林土連研究社, 東京 .
8. 只木良也 (1997) 構内の樹林は大学の施設・財産 . Nagoya Univ. Topics 43: 27.
9. 只木良也 (1997) 生態学を味方にする (5) 里山雑木林の存在意義 . ARCHITECT 103: 4-5.
10. 只木良也 (1997) 針葉樹人工林と環境保全 . 朝日新聞, ウイークエンド経済 . 1997/5/17.
11. 只木良也 (1997) 自由に気候に森林浴 . NOMA プレスサービス 550: 8-9.
12. 只木良也 (1997) ことわざのなかに真実がある . 連合 110: 2-3.
13. 只木良也 (1997) 生態学を味方にする (6) 環境問題と生態学的思考 . ARCHITECT 105: 4-5.
14. 只木良也 (1997) 愛知万博私の提言 2 . 自然保存個所明確に . 中日新聞 . 1997/6/23.
15. 竹中千里 ; 恩田裕一 ; 榊原岳史 ; 笹間 崇 ; 酒井佳美 ; 只木良也 ; 野々村稔郎 (1997) ヒノキ人工林における酸中和過程、大型人工降雨実験による追跡 . 森林立地 39(1): 29-35.
16. 只木良也 (1997) 遷移と森林生態系の保全 (学術会議「生物多様性の保全」シンポジウム), 森林科学 20: 37-40. 1997/6.
17. 只木良也 (1997) 書評”豊かな森へ—A Richer FOREST—日本語版 (神崎康一ほか訳)” . 林業技術 665: 42-43.
18. 只木良也 (談話) (1997) 森との対話 . 私の旅 8: 30-35.
19. 只木良也 (1997) 雑木林の仕組みと働き . 森林科学 21: 31-35.
20. 只木良也 (1997) 地球環境問題の中でこれからの森林・林業を考える . 緑と森林 22: 1-19.
21. Xue, L.; A. Hagihara ; Y. Tadaki ; X. Du (1997) Self-thinning in Prince Rupprecht's Larch (*Larix principis-rupprechtii* Mayr) stands. J.For.Res. 2: 221-226.
22. 沖野外輝夫・奥貫 隆・只木良也 (鼎談記録) (1997) 「エコロジカル・アプローチ」をめぐって . PREC Study Report 1: 44-68.
23. 只木良也 (1997) 生物や自然を保護するということ . ふれ愛・自然 5: 4.

UEDA, Keisuke 上田恵介

1. 上田恵介・唐木雅徳 (1997) セイロンベンケイ *Bryophyllum pinnatum*(Lam) Kurz の花から盗蜜する小笠原のメジロ *Zosterops japonica* . Strix 13:122-126
2. 上田恵介 (1997) 赤・白・黒は危険信号? —鳥の警告色と擬態— 生物科学 49: 37-48.

WATANABE, Hiroyuki 渡辺弘之

1. Watanabe, H.(1997) Potential for agro-forestry development: The Taungya reforestation method. Perspectives on forestry resources management. Report of an APO seminar on forestry resources management held in Tokyo from 17 to 27 October 1995. Asian Productivity Organization. Tokyo.77-84.

2. Bambang H. Saharjo; Watanabe, H.(1997) The effect of fire on the germination of *Acacia mangium* in a plantation in south Sumatra, Indonesia. *Commonwealth Forestry Review*. 76:128-131.
3. 渡辺弘之；中川重年，監修，ユネスコ・アジア文化センター，編(1997) 木(Trees).59pp. 小学館. 東京
4. 渡辺弘之(1997) タケ. In: 事典 東南アジア. (ed.by 京都大学東南アジア研究センター) .pp.128-129. 弘文堂, 東京.
5. 渡辺弘之(1997) 森林伐採が土壌動物に及ぼす影響. In.土壌圏と地球環境問題. (ed.by 木村真人) . pp.115-128.名古屋大学出版会, 名古屋.
6. Watanabe, H.(1997) Estimation of arboreal and terrestrial arthropod densities in the forest canopy as measured by insecticide smoking.In:Canopy arthropods.(ed.by Stork,N.E.; Adis,J. & Didham,R.K.). pp.401-414.Chapman & Hall, London.
7. 渡辺弘之(1997) シーボルトミミズ. In:ひょうごの野生動物. (ed.by 兵庫県自然保護協会) . 神戸新聞総合出版センター, 神戸.
8. 渡辺弘之(1997) 東北タイの産米林 -その樹種と利用-. In:農耕の世界 その技術と文化 IV アジアの農耕様式. (ed.by 渡部忠世) . pp.144-157. 大明堂. 東京.
9. 渡辺弘之(1997) 貧毛類 (ミミズ類) .In:日本動物大百科 7 無脊椎動物. (ed.by 日高敏隆) . pp.113-114. 平凡社. 東京

WATANABE, Mamoru 渡辺守

1. Watanabe, M., Y. Nakanishi & M. Bon'no (1997) Prolonged copulation and spermatophore size ejaculated in the sulfur butterfly, *Colias erate*(Lepidoptera: Pieridae) under selective harassments of mated pairs by conspecific lone males. *J. Ethol.*, 15:45-54. [copula duration, lone male, male age, re-mating, spermatophore size]
2. Watanabe, M. & T. Oh'ura (1997) Egg cannibalism by newly hatched larvae of the small white butterfly *Pieris rapae crucivora*(Pieridae) on an artificial diet. *Journal of the Lepidopterists' Society*, 51:304-315. [artificial diet, devouring, larval duration, nibbling, starved larvae]
3. Watanabe, M. & M. Taguchi (1997) Competition for perching sites in the hyaline-winged males of the damselfly *Mnais pruinosa costalis*Selys that use sneaky mate securing tactics (Zygoptera: Calopterygidae). *Odonatologica*, 26:183-191. [abdomen size, copula duration, satellite, territory of orange-winged male, wanderer]
4. 村岡一幸・渡辺 守 (1997) 花蜜の体積と糖量、糖濃度の測定法 . 三重大学教育学部研究紀要 , 48 (自然科学) :29-35. [B.C.G.試験紙, シュガー・アナライザー, 変色, 粘性, 同定]
5. 村岡一幸・渡辺 守 (1997) シロチョウ類 (モンシロチョウ・スジグロシロチョウ) の吸蜜量測定器の作成と最適糖濃度 . 昆虫 , 65:225-232. [measuring techniques, nectar intake, optimal sugar concentration, pierid butterflies]

YOH, Muneoki 楊宗興

1. 楊 (1997) 気候変動 In: 地球環境と自然保護 (改訂版) (ed. by 東京農工大学農学部「地球環境と自然保護」編集委員会) pp.72-75. 培風館, 東京 .
2. Yoh, M. ; H. Toda ; K. Kanda ; H. Tsuruta, (1997) Diffusion analysis of N₂O cycling in a fertilized soil. *Journal of Nutrient Cycling in Agroecosystems*. 49: 29-33.
3. Watanabe, T. ; T. Osada ; M. Yoh ; H. Tsuruta (1997) N₂ O and NO emissions from grassland soils after the application of cattle and swine excreta. *Journal of Nutrient Cycling in Agroecosystems*. 49: 35-39.
4. 木平英一；楊 宗興；戸田任重；八木一行；窪田順平；塚本良則 (1997) 森林流域谷底部土壌の脱窒作用 . 日本林学会誌 79: 83-88.

5. 木平英一；楊 宗興；八木一行；窪田順平（1997）降雨に伴う渓流水の NO₃-N 窒素安定同位体比の変動．水文・水資源学会誌 10: 360-366.

YOSHIOKA, Takahito 吉岡崇仁

1. Yoshioka, T. (1997) Phytoplanktonic carbon isotope fractionation: equations accounting for CO₂-concentrating mechanisms. *Journal of Plankton Research* 19: 1455-1476. [carbon isotope ratio, phytoplankton, isotope fractionation, CO₂]
2. 吉岡崇仁；李在鎔；日野修次, (1997) 貧栄養湖の物質循環に対する陸起源有機物の影響. *陸水学雑誌* 58: 91-93. [oligotrophic lake, terrestrial organic matter, material cycle]
3. 吉岡崇仁 (1997) 有機物の一次生産と分解過程における安定同位体比の変動. *水環境学会誌* 20: 292-295. [primary production, decomposition, stable isotope, isotope fractionation]
4. 吉岡崇仁 (1997) T L = 1 の同位体比. *月刊海洋* 29: 408-412. [stable isotope, food web]



生態研セミナー

第 8 4 回 生態研セミナー

1997年1月17日

「魚類の視覚適応の分子生態学的アプローチ」

"Molecular ecological approach of visual adaptation in fish"

清水 勇（京都大学生態学研究センター）

Isamu Shimizu (Center for Ecological Research, Kyoto University)

「カメムシ類における交尾後警護行動の進化」

"Evolution of post-copulatory mate guarding behavior in heteropteran bugs"

西田 隆義（京都大学農学部昆虫学教室）

Takayoshi Nishida (Laboratory of Entomology, Faculty of Agriculture, Kyoto University)

第 8 5 回 生態研セミナー

1997年1月31日

「社会性昆虫の性比と血縁選択」

"Sex ratio and kin-selection in social insects"

長谷川 英祐（国立環境研究所野生生物保全）

Eisuke Hasegawa (Laboratory of Wildlife Conservation, National Institute for Environmental Studies)

「日本の植生と中国東北部の植生」

"The vegetation of Japan and Northeastern part of China"

田端 英雄（京都大学生態学研究センター）

Hideo Tabata (Center for Ecological Research, Kyoto University)

第86回 生態研セミナー

1997年2月7日

「重力下における樹形の分枝モデル」

"Branching models of botanical trees in gravity"

本多 久夫 (兵庫大学経済上法学部)

Hisao Honda (Hyogo University)

「種分化のモデル」

"A model for speciation"

東 正彦 (京大大学生態学研究センター)

Masahiko Higashi (Center for Ecological Research, Kyoto University)

第87回 生態研セミナー

1997年2月21日

「ミズゴケ湿原は安定か不安定か？」

"Are *Sphagnum* bogs stable or unstable?"

藤田 昇 (京大大学生態学研究センター)

Noboru Fujita (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

1997年2月24日

"The Ecotron: Experiments with model terrestrial ecosystems"

T. Hefin Jones (Center for Population Biology, Imperial College)

"The effects of fire and large herbivores on plant community structure in North American tallgrass prairie"

Scott L. Collins (Division of Environmental Biology, NSF)

生態研セミナー スペシャル

1997年4月17日

"Threats to fish biodiversity in Lake Malawi"

Harvey Kabwazi (Chief of Department of Biology (Genetics), University of Malawi)

第88回 生態研セミナー

1997年4月18日

"Biogeochemistry and the ribosome: Biological stoichiometry in ecosystems"

Jim Elser (Dept. Zool., Arizona State University & CER, Kyoto University)

「島嶼における送粉共生系とその保護」

"Plant-pollinator interactions on islands: ecosystem and conservation"

加藤 真 (京大大学総合人間学部自然環境学科)

Makoto Kato (Faculty of Integrated Human Studies, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

1997年4月22日

「樹木の種多様性のグローバルパターン」

"Large scale patterns of tree species diversity"

菊沢 喜八郎 (京都大学生態学研究センター)

Kihachiro Kikuzawa (Center for Ecologica Research, Kyoto University)

「フタバガキの菌根菌」

"Mycorrhiza of dipterocarps"

菊池 淳一 (関西総合環境センター生物環境研究所)

Junichi Kikuchi (Biological Environment Institute Kansai Environmental Engineering Center., Co Ltd.)

生態研セミナー スペシャル

1997年4月25日

"Host race formation and sympatric speciation in *Eurosta solidaginis*"

Timothy P. Craig (Dept. of Life Sciences, Arizona State University West)

生態研セミナー スペシャル

1997年5月6日

「トチノキの種子捕食と二次散布」

"Seed predation and secondary dispersal of *Aesculus turbinata*"

星崎 和彦 (京都大学生態学研究センター)

Kazuhiko Horsizaki (Center for Ecological Research, Kyoto University)

「森林生態系における炭素同位体」

"Carbon isotopes within forest ecosystems"

半場 祐子 (筑波大学生物科学系)

Yuko T. Hanba (Institute of Biological Sciences, University of Tsukuba)

生態研セミナー 第89回

1997年5月9日

「鳥類の育児寄生における進化の理論的研究」

"Theoretical study of evolution in avian brood parasitism"

高須 夫悟 (奈良女子大学理学部情報科学科)

Fugo Takasu (Dept. of Information and Computer Sciences, Nara Women's University)

「マラウイ湖の魚類群集構造ータンガニカ湖との比較」

"Fish community in Lake Malawi, Africa: a comparison with the case in L. Tanganyika"

遊磨 正秀 (京都大学生態学研究センター)

Masahide Yuma (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル (熱帯生態学セミナー with Dr. Ashton)

1997年5月13日

「樹木の光合成過程の生態生理学」
"Ecophysiological analysis on photosynthesis of forest trees"
二宮 生夫 (愛媛大学農学部)
Ikuo Ninomiya (Fac. of Agriculture, Ehime University)
「サラワク熱帯雨林の脊椎動物媒」
"Vertebrate pollination in a tropical rainforest of Sarawak"
湯本 貴和 (京都大学生態学研究センター)
Takakazu Yumoto (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル (熱帯生態学セミナー with Dr. Ashton)

1997年5月20日
「土壌分解系の機能と土壌動物群集の多様性の関係について」
"Biodiversity of soil animals in relation to the function of decomposer systems"
武田 博清 (京都大学大学院農学研究科)
Hiroshi Takeda (Lab. of Forest Ecology, Graduate School of Agricultural Sciences, Kyoto University)
「種多様性と生態系動態：種多様性の異なる熱帯山地林間での比較」
"Species diversity and ecosystem dynamics: Long-term ecosystem dynamics in a species-poor versus a species-rich tropical montane rainforest"
北山 兼弘 (森林総合研究所海外森林環境変動研究チーム)
Kanehiro Kitayama (Overseas Forest-Environment Research Team, The Japanese Forestry & Forest Products Research Institute)

生態研セミナー 第90回

1997年5月23日
「人間行動生態学と進化的人間理解」
"Human behavioral ecology and evolutionary understanding of human nature"
長谷川 寿一 (東京大学総合文化研究科)
Toshikazu Hasegawa (The University of Tokyo)
「トチノキ(*Aesculus turbinata*)の送粉生態学」
"Pollination ecology of Japanese horse-chestnut, *Aesculus turbinata*"
角谷 岳彦 (京大総合博物館)
Takehiko Kakutani (The Kyoto University Museum)

生態研セミナー スペシャル

1997年5月27日
「西スマトラ州におけるブナ科の分布」
"Distribution of Fagaceae in west Sumatra"
西村 千 (京大大学院農学研究科)
Sen Nishimura (Lab. of Tropical Forest Resources and Environments, Div. of Forest and Biomaterials Science Graduate school of Agriculture)
「温帯林の樹木のデモグラフィ」
"Demography of tree species in a temperate forest"
田中 浩 (森林総合研究所森林環境部)

Hiroshi Tanaka (Forest Environment Division Forestry & Forest Products Research Institute)

生態研セミナー スペシャル

1997年6月6日

"Social and environmental change by sericulture: a case of women-centered sustainable development approach in Nepal"

Ganesh Gurung (NGO STET / NEPAL)

「熱帯林の植物の繁殖周期と送粉者について」

"Reproductive intervals and pollinators of tropical forest plants"

百瀬 邦泰 (京都大学生態学研究センター)

Kuniyasu Momose (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー 第91回

1997年6月13日

「食うものと食われるもののダイナミクスと施設園芸害虫の生物的防除」

"Dynamics of prey-predator system and biological control of glasshouse pests"

矢野 栄二 (農業環境技術研究所昆虫管理科天敵生物研究室)

Eizi Yano (National Institute of Agro-Environmental Sciences)

「メソスケールでの林冠動態の把握」

"Meso-scale canopy dynamics detected by aerial photographs"

中静 透 (京都大学生態学研究センター)

Tohru Nakashizuka (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー 第92回

1997年6月27日

「シラカンバ種子の発芽季節分離—適応的意義とメカニズム—」

"Germination dimorphism in seeds of Japanese white birch (*Betula platyphylla*)- Adaptive significance and mechanism -"

小山 浩正 (北海道立林業試験場)

Hiromasa Koyama (Hokkaido Forestry Research Institute)

「性淘汰と雌雄の対立—雄口内保育魚を例に—」

"Sexual selection and sexual conflict: a case of paternal mouthbrooding fish"

奥田 昇 (京都大学生態学研究センター)

Noboru Okuda (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

1997年7月4日

"Topics on fish biodiversity in Lake Malawi"

Anthony J. Ribbink (SADC/GEF Lake Malawi Biodiversity Conservation Project, MALAWI)

生態研セミナー 第93回

1997年9月19日

「木材穿孔性昆虫キバチ類の菌利用様式と両者をめぐる生物間相互作用」

"Fungus-utilization system of woodwasps (Siricidae) and interactions among organisms involved in the system"

福田 秀志 (名古屋大学農学部森林保護学研究室)

Hideshi Fukuda (Laboratory of Forest Protection, School of Agricultural Sciences, Nagoya University)

「植物の繁殖生態学における理論の役割」

"The role of theory in plant reproductive ecology"

山村 則男 (京大大学生態学研究センター)

Norio Yamamura (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

1997年9月24日

「琵琶湖生態系の鉛直・水平構造—安定同位対比からの評価」

"Horizontal and Vertical Isotopic Model of Lake Biwa Ecosystem"

山田 佳裕 (京大大学生態学研究センター)

Yoshihiro Yamada (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

1997年9月29日

"Gene regulation and evolution: a genetic algorithm model"

Narayan Behera (Center for Ecological Research, Kyoto University)

"A 'Good-Sperm' model can explain the costly multiple mating by females"

Yukio Yasui (Center for Ecological Research, Kyoto University)

"Response of fungus-growing termites to the mosaic structure due to gap dynamics in dry evergreen forest of Sakaerat, Thailand"

Takuya Abe (Center for Ecological Research, Kyoto University)

"Tree Leaf Longevity-- Model expectation and actual measurements"

Kihachiro Kikuzawa (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー スペシャル

1997年10月1日

「安定および変動環境下における社会性昆虫の最適な齢間分業の動的考察」

"Dynamic model of optimal age polyethism in social insects under stable and fluctuating environments"

若野 友一郎 (京大大学生態学研究センター)

Yuichiro Wakano (Center for Ecological Research, Kyoto University)

"Optimal patch leaving as a war of attrition"

Patsy Haccou (University of Leiden, the Netherlands)

生態研セミナー 第94回

1997年10月3日

「棲み込み連鎖」から何がどう見えるか」

"Community structure and inhabitation chain hypothesis"

西平 守孝 (東北大学大学院理学研究科生物学専攻)

Moritaka Nishihira (Biological Institute, Graduate School of Science, Tohoku University)

「個体群調節の進化的背景」

"Evolutionary background of population regulation"

大串 隆之 (北海道大学低温科学研究所)

Takayuki Ohgushi (Institute of Low Temperature Science, Hokkaido University)

生態研セミナー スペシャル

1997年10月7日

"Pollination ecology of coffee"

David W. Roubik (Smithsonian Tropical Research Institute)

生態研セミナー スペシャル

1997年10月13日

"Biology and ecology of hornbills"

Pilai Poonswad (Fac. of Sci., Mahidol Univ., Thailand)

"Seed-dispersal by hornbills"

湯本 貴和 (京大大学生態学研究センター)

Takakazu Yumoto (Center for Ecological Research, Kyoto University)

生態研セミナー 第95回

1997年10月17日

「争う資源価値に個人差がある連続ゲームシミュレーションによる考察」

蔵 琢也 (京都大学大学院理学研究科動物学教室)

「マダガスカルで何をしているのか」

山岸 哲 (京都大学大学院理学研究科動物学教室)

生態研セミナー スペシャル

1997年11月4日

"Ecological consequences of declining biodiversity: Examples from experimental studies using plants, animals, and microbes"

Shahid Naeem (Department of Ecology, Evolution and Behavior, University of Minnesota)

生態研セミナー 第96回

1997年11月21日

「温暖化環境で生育した樹木の光合成反応—個体から群落へ—」

小池 孝量 (東京農工大学農学部)

「混合栄養生物の不可解：琵琶湖でブルームを形成する黄金藻 *Uroglena americana* を例として」

占部 城太郎 (京大大学生態学研究センター)

生態研セミナー 第97回

1997年12月5日

「果実生産の年変動に対する鳥・サルの反応」

野間 直彦 (京大大学生態学研究センター)

「プランクトン屋のパラドクス」

渡辺 泰徳 (東京都立大学大学院理学研究科)

生態研セミナー スペシャル

1997年12月11日

"The role of paleomycology in interpreting biological interactions"

Thomas N. Taylor (Department of Botany, University of Kansas)

"Permian and Triassic paleoclimates: signals from fossil plants"

Edith E. Taylor

生態研セミナー 第98回

1997年12月19日

"Ecosystem engineers: How terrestrial biota control the physical environment of lakes"

W.F. Vincent (Laval University, Canada)

「過去25～35年間の琵琶湖の生物群集の変遷」

中西 正己 (京大大学生態学研究センター)

調査船「はす」運航表

調査船「はす」運航実施表（平成9年度）

H10.3.31

月日	時間	用務内容	乗船人数				
			技官	教官	院生	共同利用	その他
4/ 8	8:50~13:35	定期観測	2		6	1	
/1 6	8:50~13:35	観測及びサンプリング	1	1	2	2	1
/1 7	8:50~13:35	＊	1	1	2		1
/1 8	8:50~13:35	＊	1	1	2		
/2 1	8:50~	サンプリング（湖上泊）	1	1	3		
/2 2	~13:35		1	1	3		
/2 4	8:50~13:35	サンプリング	1	1	4		
5/ 1	8:25~11:40	＊	1	1	4		
6	8:50~14:05	定期観測	2		4	2	
8	9:00~12:45	サンプリング	1	1	3		1
1 4	8:30~11:40	＊	1	1	4		
1 5	9:10~15:35	＊	1	1	1		1
2 0	8:15~14:35	観測及びサンプリング	1	1	3	1	1
2 1	9:30~13:15	＊	1	1	1	1	1
2 2	8:30~13:00	＊	1	1	4		
2 4	9:15~14:00	＊	1				1
2 7	18:30~	サンプリング（湖上泊）	1	1	3		
2 8	~7:15		1	1	3		
2 9	9:20~12:05	サンプリング	1	1		1	
3 0	8:25~11:55	＊	1		4		
6/ 3	8:50~13:30	定期観測	2		4	2	
6	8:45~12:25	サンプリング	1	1	3		
1 0	10:10~	サンプリング（湖上泊）	1	2	2		
1 1	~8:50		1	2	2		
1 2	8:30~11:35	サンプリング	1	1	3		
1 6	9:15~17:45	点検修理	1				
1 7	8:30~14:00	観測及びサンプリング	1	1	2	1	
1 8	9:00~13:00	＊	1	1	2		
2 3	18:00~	サンプリング（湖上泊）	1	1	2		
2 4	~9:00		1	1	2		
2 5	9:00~12:25	サンプリング	1		3		
2 7	8:30~12:40	＊	1	1	3		
3 0	15:15~	サンプリング（湖上泊）	1	1			
7/ 1	~9:00		1	1			
2	8:40~18:00	サンプリング	1		1	1	2
3	7:30~16:05	＊	1		1	1	
4	8:25~12:45	サンプリング	1		3		
7	9:00~13:00	＊	1		1	3	
1 0	13:30~15:00	ウィンチ修理	2				
1 1	8:55~13:15	サンプリング	1		3	4	
1 5	7:40~17:15	観測及びサンプリング	1		1	1	1
1 6	11:10~13:30	＊	1	1	1	2	1
1 8	9:00~14:25	定期観測	2		3	4	
1 9	11:20~16:10	サンプリング	1		1		
2 3	8:20~12:10	＊	1		3		
3 0	8:20~11:40	＊	1		3		
3 1	18:00~	サンプリング（湖上泊）	1	1	2		
8/ 1	~8:00						
4	9:00~14:00	サンプリング	1		1		
6	8:50~14:05	定期観測	2		4	1	
7	8:20~11:45	サンプリング	1		3		
1 2	7:30~18:00	観測及びサンプリング	1		1	1	1
1 3	10:50~14:00	＊	1	1	1		1
1 4	9:00~14:00	＊	1	1	2		
1 8	18:50~	サンプリング（湖上泊）	1	1	2		
1 9	~7:40		1	1	2		

21	8:20~11:50	サンプリング	1		3		
26	9:50~15:20	京大学生実習	1	1	1	2	
27	8:30~11:35	サンプリング	1		3		
28	9:40~10:00	＊	1	1			
9/2	9:00~13:35	定期観測	2		3		
4	8:30~11:45	サンプリング	1		2		3
5	9:10~10:20	＊	1	1			
11	8:25~12:05	＊	1		3		
18	7:35~14:40	観測及びサンプリング	1	1	1	1	1
19	9:00~11:30	＊	1	1	3		
24	8:20~12:25	サンプリング	1		4		
26	7:30~11:00	＊	1	1	4		
29	17:10~	サンプリング(湖上泊)	1	1	2		
30	~10:20		1	1	2		
10/3	8:25~12:00	サンプリング	1		4		
6	9:00~12:00	＊	1	1		2	
7	8:50~13:35	定期観測	1		3	4	
8	8:25~11:35	サンプリング	1		3		
14	7:30~12:40	観測及びサンプリング	1	1	3	1	
15	12:00~14:00	＊	1	1	2		
20	16:40~	サンプリング(湖上泊)	1	1	2		
21	~9:00		1	1	2		
24	8:30~11:30	サンプリング	1		3		
31	8:30~12:00	＊	1		3		
11/4	9:00~14:35	定期観測	2		2	5	1
5	8:25~11:30	サンプリング	1		4		
10	11:10~	サンプリング(湖上泊)	1	1	1		
11	~14:00		1	1	1		
12	7:55~12:20	サンプリング	1			4	
13	8:20~11:30	＊	1		6		
17	7:15~12:05	観測及びサンプリング	1	1	4		
18	7:50~9:30	荒天のため中止	1		3		
19	9:00~12:00	サンプリング	1	1	2		
20	8:45~12:25	＊	1			3	
28	8:20~13:10	＊	1		4	2	
12/4	9:00~13:50	定期観測	2		4	2	
5	9:00~13:45	サンプリング	1		1		1
16	15:45~	サンプリング(湖上泊)	1	1	2		
17	~11:35		1	1	2		
25	8:30~11:35	サンプリング	1		3		
H10							
1/12	9:00~13:15	定期観測	2		4		
13	15:50~	サンプリング(湖上泊)	1	1	1		
14	~9:30		1	1	1		
16	8:30~11:30	サンプリング	1		4		
27	9:00~15:30	＊	1	1	3		
2/3	9:00~14:00	＊	1		1		
12	9:00~14:00	定期観測	2		3	3	
18	9:10~10:20	荒天のため中止	1		4		
19	8:25~12:05	サンプリング	1		4		
27	16:30~	サンプリング(湖上泊)	1	1	1		
28	~8:00		1	1	1		
3/3	9:45~10:50	写真撮影	1		4		
5	14:10~14:40	造船所へ	1		3		1

延べ運航日数 110日

延べ乗船者数 508名

技官 119 教官 59 院生 252 共同利用 58 その他 20

あとがき

- センターのスタッフと大学院生の著作リストに関して、第6巻の業績目録から変更した<原著論文、著書、その他>という区分については、とくに否定的な意見は出なかったので、第7巻もこの形式にしました。異論がなければ、センターの時限までこの体裁でいこうと考えております。
- 作業は青木和枝さんの協力を得ました。厚くお礼を申し上げます。
- 協力研究員のうち、28名の方にご自身が載せるべきだと判断された著作目録をお寄せいただきました。どうもありがとうございました。

(編集担当：湯本貴和)
